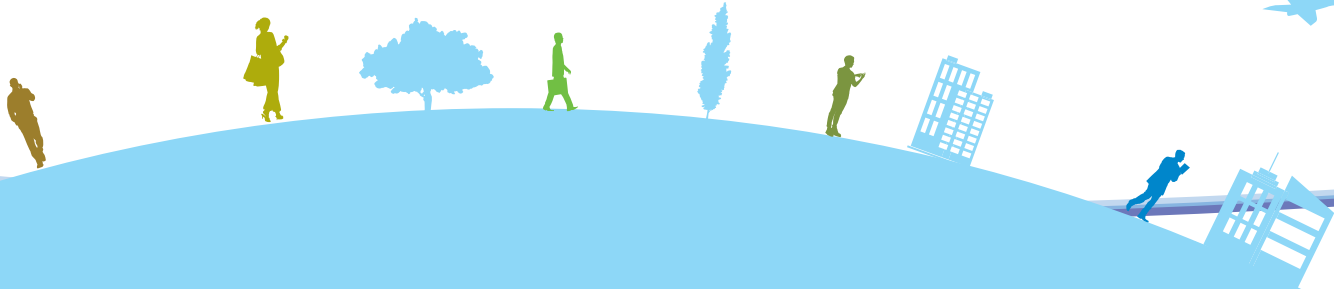




# 東京精密

## CSR 報告書 2017



## 編集方針

東京精密グループは「持続可能な社会の実現」に向けて果たすべき責任や役割を摸索するために、2015年4月に社長直轄のCSR推進室を設置し、CSR (Corporate Social Responsibility : 企業の社会的責任) 活動に踏み出しました。東京精密グループの全ての企業活動が「環境への配慮」を怠らず、「社会価値を創出」し、「社会課題の解決」に貢献し続けるために、顕在するあるいは潜在する全てのステークホルダーの皆様企業活動を開示することを目的としてCSR報告書を発行しました。

この報告書をステークホルダーの皆様とのコミュニケーションツールとして活用し、ご評価やご意見、ご感想をいただくことで、取り組み始めたCSR活動をより実効性の高い活動へと育てていきたいと考えています。

## 本報告書の対象範囲

対象期間： 原則2016年4月1日～2017年3月31日の活動を報告。  
報告対象期間以前から継続している取り組みや、直近のものも含まれます。

対象組織： 株式会社東京精密  
半導体社 八王子工場 (東京都八王子市)  
計測社 土浦工場 (茨城県土浦市)  
業務会社 (東京都八王子市)  
半導体社 営業所 (国内3営業所)  
計測社 営業所 (国内14営業所)

関連会社： 株式会社東精エンジニアリング (茨城県土浦市、愛知県みよし市)  
株式会社トーセイシステムズ  
株式会社東精ボックス

原則(株)東京精密グループを対象とし、報告対象が限定されている報告については、個別に報告範囲を記載しています。  
報告書発行：2017年10月(次回：2018年10月予定、前回：2016年10月)



## 追加情報の入手先

- ▶ 東京精密の環境・社会活動のページ <http://www.accretech.jp/csr/index.html>
- ▶ 東京精密の製品情報 <http://www.accretech.jp/product/index.html>

以下の資料がダウンロードできます。

- ▶ 会社案内 <http://www.accretech.jp/company/guide.html>
- ▶ 各種財務データ <http://www.accretech.jp/ir/library/index.html>
- ▶ CSR報告書 <http://www.accretech.jp/csr/index.html>

# CONTENTS

東京精密の会社概要	4
ごあいさつ	6
東京精密のCSRの考え方	8
ACCRETECHグループ行動規範	10
ステークホルダー・エンゲージメント	11
コーポレート・ガバナンス	12
コーポレート・ガバナンス	
コンプライアンス・リスク管理	
お客様とのかかわり	16
品質管理の取り組み	
顧客満足追求の取り組み	
グローバルで高機能なサポート体制	
サプライヤとのかかわり	20
調達にあたっての基本的な考え方	
調達にあたっての協力依頼事項	
サプライヤ様との協働体制	
従業員とのかかわり	22
雇用・人材活用	
労働安全衛生	
株主・投資家とのかかわり	26
株主・投資家向け情報開示の考え方	
積極的なIR活動	
地球環境とのかかわり	27
環境における基本的な考え方と管理体制	
エコファクトリー	
エコプロダクツ	
環境目標と環境負荷の全体像	
環境保全活動の歩み	
社会とのかかわり	35
土浦地域における取り組み	
八王子地域における取り組み	
業界における取り組み	
ISO26000 対照表	37
グループ会社紹介	38

# 東京精密の会社概要

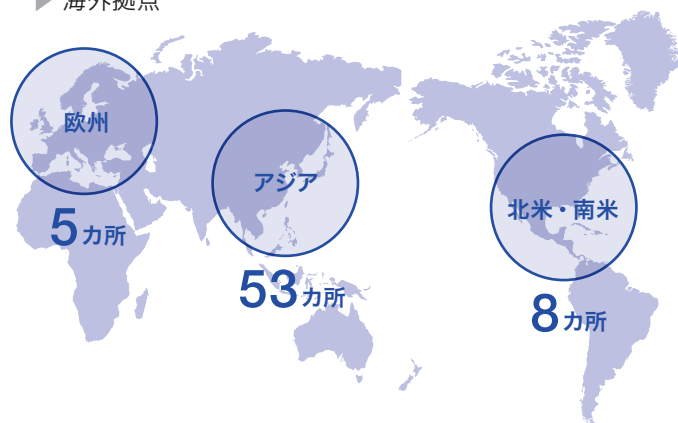


東京精密は、半導体製造装置、精密測定機器を事業の柱として、アジアを中心に欧州、米国など、グローバルに事業を展開しています。世界中の優れた技術・知恵・情報を融合して世界No.1の商品を創り出し、皆様と共に大きく成長し続けることを目指します。

## ■ 会社概要

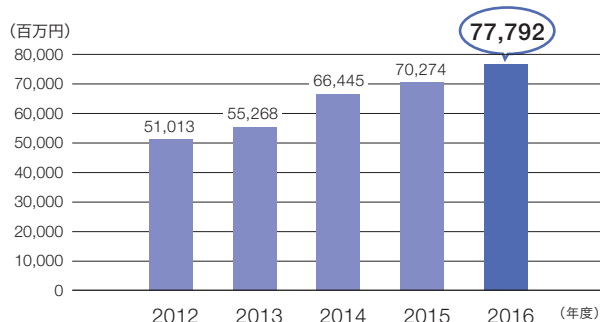
社名	株式会社 東京精密
本社所在地	東京都八王子市石川町2968-2
設立年月日	1949年3月28日
代表者	吉田 均
資本金	10,462百万円(2017年3月31日現在)
証券取引所	東京証券取引所市場第一部
売上高(連結)	77,792百万円(2017年3月期)
経常利益(連結)	13,864百万円(2017年3月期)
従業員数(連結)	1,784名(2017年3月31日現在)
事業所	八王子工場、土浦工場 ほか国内17営業所、 海外拠点66カ所、国内グループ会社5社等

## ▶ 海外拠点

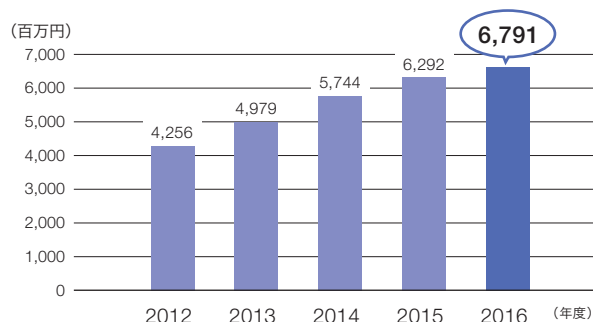


## ■ 財務データ(連結)

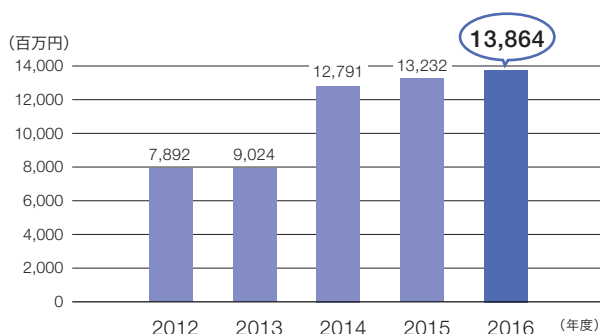
### ▶ 売上高



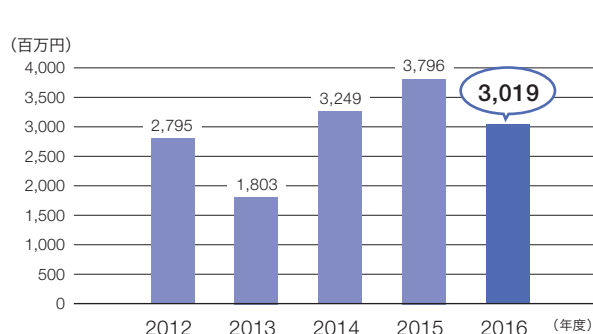
### ▶ 研究開発費



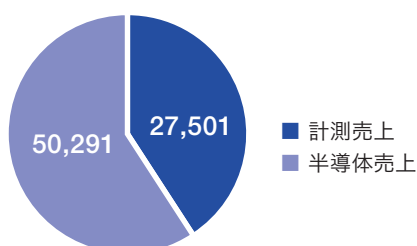
### ▶ 経常利益



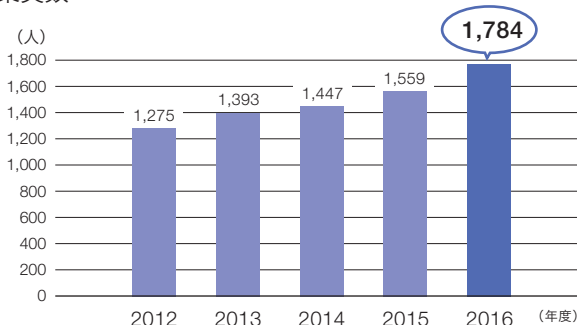
### ▶ 設備投資



### ▶ 2016年度の事業別売上高(百万円)



### ▶ 従業員数



## ■ 事業概要

東京精密は、半導体製造装置及び精密測定機器の2つを柱とし、事業活動を行っています。半導体は、スマートフォンや、自動車、航空機など、便利で快適な社会を構成するあらゆる機器に欠かせないものであり、機器の小型化や高効率化といった機能改善、環境負荷低減等の社会要請にも貢献することができる事業分野です。IoT※を始め今後ますます成長が見込まれる半導体

※IoT: Internet of Thingsの略。すべてのモノがインターネットにつながること

市場における事業活動を通じ、社会の要請に応じていきます。

精密測定機器は製品製造ラインのさまざまな段階で必要とされる高い計測機能を提供し、ものづくりを支えています。「測れないものは作れない」の考えのもと、今後も高い技術力を発揮し、測る技術でものづくりを支え、社会を支えていきたいと考えています。

## ■ 製品紹介

### 半導体製造装置



#### プロービング・マシン

プロービング・マシンは、ウェーハ上に形成された半導体チップの電気性能テストをプローブカードを経由して、半導体テストと接続し、実施する装置です。



#### ダイシング・マシン

ダイシング・マシンは、ウェーハ上に形成された多数の半導体チップを1個1個のチップに切断する装置です。

### 精密測定機器



#### 三次元座標測定機

直行座標系にスケールを備え、測定物とプローブの位置関係をX、Y、Zの座標として読み取る測定機で寸法、位置、形状、幾何偏差などの評価をします。



#### 表面粗さ・輪郭形状測定機


表面粗さ測定機は、加工された測定物表面の「つるつる」「ざらざら」という感覚の凹凸を定量的に測定し、粗さパラメータ（JIS規格やISO規格）で評価する測定機です。



#### 真円度・円筒形状測定機

真円度測定機は、一般に「丸い」とか「円」が理想の円（幾何学的に正しい円）と比べてときに、どの程度誤差をもっているかを評価します。

# ごあいさつ



東京精密グループは  
“夢のある未来”を築く  
一員であり続けます。

代表取締役社長CEO

吉田 均

## 企業理念：

世界中の優れた技術・知恵・情報を融合して  
世界No.1の商品を創り出し、  
皆様と共に大きく成長していく

## MOTTO：

「WIN-WINの仕事で世界No.1の商品を創ろう！」

## コーポレートブランド：

**ACCRETECH**

“Accrete(共生)”と“Technology(技術)”の合成語

東京精密グループは、創業当初から今日に至るまで、多くのビジネスパートナーの方々に支えられて成長してまいりました。改めて厚く御礼申し上げます。

当社は『環境・社会報告書 2015』で電子業界行動規範であるEICC (Electric Industry Code of Conduct) への準拠を宣言しました。今後も厳格にこの規範を励行するとともに、より広範囲のステークホルダーの皆様とWIN-WINの関係を深めて企業価値を向上し、企業理念と価値観及び社会的責任や役割の認識を広く皆様にご理解いただくために、昨年度より「CSR報告書」を発行し公開しております。

当社は、「世界No.1の製品を創る」という目的を共有できる企業及び人材と積極的にパートナーシップを結び、ナノテクノロジーレベルの画期的な新製品開発を実現しています。協業を成功させるために、「WIN-WINの仕事で世界No.1の商品を創ろう!」というモットーのもと、異文化を包摂したグローバルかつハイブリッドな東京精密(ACCURETECH)の文化風土を醸成し、世界No.1の製品開発体制の構築に努めている技術指向型の会社です。

2001年に導入したコーポレートブランド「ACCURETECH」は、「ともに成長する」という意味の“Accrete”と“Technology”の合成語で、「世界中の優れた技術・知恵・情報を融合して世界No.1の商品を創り出し、皆様と共に大きく成長していく」という企業理念を表したものです。

この理念に基づいて、世界のものづくり企業様に最先端の精密測定技術を駆使した測定機器と精密位置決め技術を活かした半導体製造装置を提供してまいりました。今後もものづくりの原点として「測れないものは作れない」の考え方を通し、グローバル社会と地球環境に優しい価値ある技術・サービスの提供に真摯に取り組んでまいります。

また、2017年9月に「ACCURETECHグループ行動規範」

を改訂いたしました。これは、全てのステークホルダーの方々(お客様、株主・投資家の皆様、地域・社会、社員、サプライヤ様、政治・行政など)と東京精密グループが共に長期的に持続的発展を遂げていくために遵守すべき行動・姿勢を定めています。東京精密グループは透明性の高い清潔な企業姿勢を保ち、コンプライアンス管理体制を構築しコンプライアンスを推進していくために役員・社員に対しグループ行動規範遵守に関する教育・啓蒙を行い、グループ行動規範遵守意識の向上を図ってまいります。また、ステークホルダーの方々からも、グループ行動規範遵守への理解と協力が得られるよう努力してまいります。

世界中の各社が国際社会の「環境負荷が少なく、健康・安全で快適な暮らし」のニーズに応えるべく新たな“ものづくり”を目指す中、高品質なNo.1製品により不可能を可能にする生産手段を提供することでこれらのニーズを実現するのが東京精密の社会的役割であると考えています。

たとえば新興国や貧困国でもどこでも産業がおこる可能性を秘めています。当社は「精密さ」という観点で協力し、多くの人材が活躍できるような付加価値を与え、新興国・貧困国の競争力を高めることに貢献します。

東京精密は新たな価値創出の壁をお客様やサプライヤ様とともに全員力で越えていく技術集団であり、常に世界中の“ものづくり共同体”の必須メンバーとして“夢のある未来”の一員であり続けます。

株主・投資家の皆様へは、引き続き、業績・財務内容・経営戦略などの情報を正確に、分かりやすく、タイムリーにお伝えし、企業活動の透明性とガバナンスを向上させてまいります。企業価値の向上と“夢のある未来”の実現を通して、皆様が安全に資産価値を高められるよう、長期的な信頼関係を築いてまいります。

# 東京精密のCSRの考え方

東京精密グループは、世界中の優れた技術・知恵・情報を融合して世界No.1の商品を創り出し、皆様と共に大きく成長していくという企業理念を原動力に、お客様であるものづくり企業やサプライヤ様を始めとする、あらゆるステークホルダーとの協働を進め、持続可能な社会の実現を目指します。

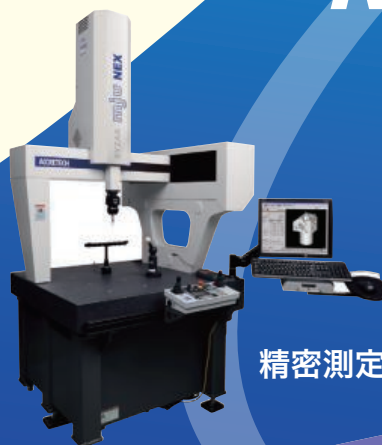
MOTTO

WIN-WINの仕事で世界No.1の商品を創ろう！



風力発電

## ACCRETECH



精密測定機器



サプライヤ

新たな価値をともに  
創出するパートナー



電装品



小型部品



材料

企業理念

世界中の優れた技術・知恵・情報を融合して世界No.1の商品を創り出し、皆様と共に大きく成長していく



## 最終製品

東京精密が支える  
ものづくり企業



スマートフォン



飛行機



次世代ロボット



自動車

## 半導体製造装置



測る技術で  
ものづくりを支え  
社会を支える

## 持続可能な 社会の実現



東京精密グループはこれまで、お客様であるものづくり企業における高効率製品の生産プロセスに不可欠な精密測定機器と、省エネ・省資源に通じる電化製品の生産に寄与する半導体製造装置で、社会の利便性の向上と環境負荷低減に貢献してきました。これは、東京精密グループの提供する「測る技術・製品でお客様のものづくりを支え、そこから生み出された最終製品の数々が社会全体を支えている」ことを意味します。

私たちが製品を通じて社会にさまざまな価値を提供し続けていくためには、中長期的な視点を持ってお客様とその先の社会のニーズを把握するとともに、東京精密の企業理念に共感してくださる多くのサプライヤ様との協働が不可欠です。

これからも、ステークホルダーの皆様とのWIN-WINの関係を礎に新たな技術を創出し、生活の質の向上、環境の維持・改善をもたらすものづくりで社会を支えていくとともに、培った技術を活かして安心・安全を提供できる新たなフィールドに進出し、持続可能な社会の発展に貢献していきます。

また、今後もステークホルダーの皆様と成長し続けるため、企業活動の全プロセスにおける人権の尊重、地球環境へ与える影響等について評価を行い、東京精密グループが負う責任を自覚し、社会的役割の確実な遂行に努めます。その一環として、CSR報告書においてはありのままの東京精密を開示し、ステークホルダーの皆様と様々なコミュニケーションを図っていきたくと考えています。



# ACCRETECH グループ行動規範

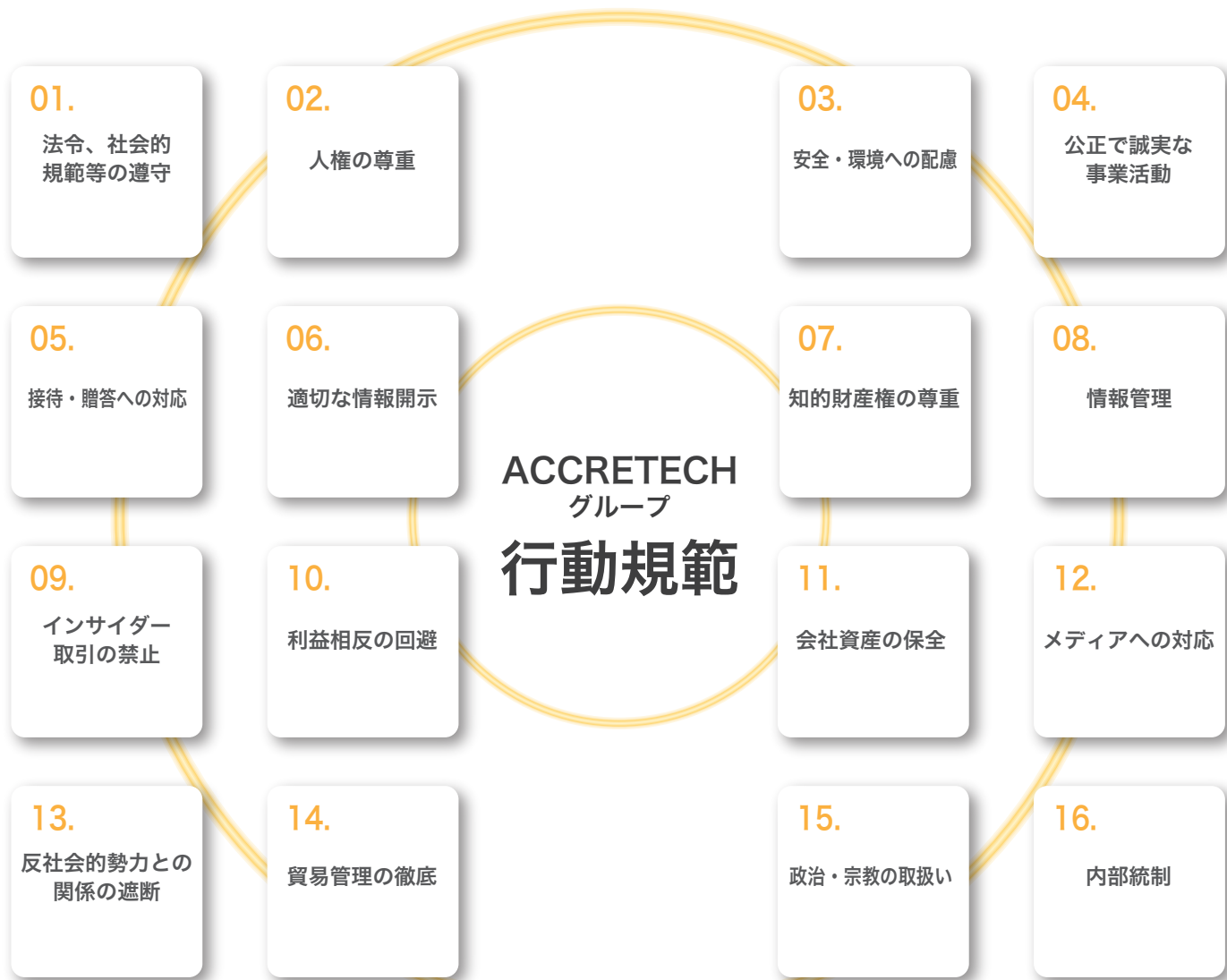
お客様、株主・投資家の皆様、サプライヤ様等、全てのステークホルダーの方々との間で WIN-WIN の関係を創りあげ、共に長期的に持続的発展を遂げていくためには、東京精密グループが事業活動を行う社会に受け入れられる行動を取らねばなりません。

東京精密グループでは、法令・社内規程等の遵守、人権の尊重、公正誠実な事業活動、倫理的行動など、役員・社員が遵守すべき「ACCRETECH グループ行動規範」（以下、「グループ行動規範」という）を制定し、透明性の高い清潔な企業姿勢を保ち、コンプライアンス管理体制を構築し、コンプライアンスを推進していきます。

東京精密グループは役員・社員に対しグループ行動規範遵守に関する教育・啓蒙を行い、グループ行動規範遵守意識の向上を図っていきます。

また、関係するステークホルダーの方々にもグループ行動規範について理解と協力が得られるよう努力していきます。

グループ行動規範の示す行動指針の概要は以下の通りです。



# ステークホルダー・エンゲージメント



あらゆるステークホルダーとのコミュニケーションのチャンネルを創出し、WIN-WINの関係を深めることにより、持続的で力強い成長をしていきます。

東京精密グループの事業活動はさまざまなステークホルダーとのかかわりによって成り立っています。このため、事業活動の全てのプロセスにおいて、ステークホルダーとの双方向のコミュニケーションを重視する活動を行っています。

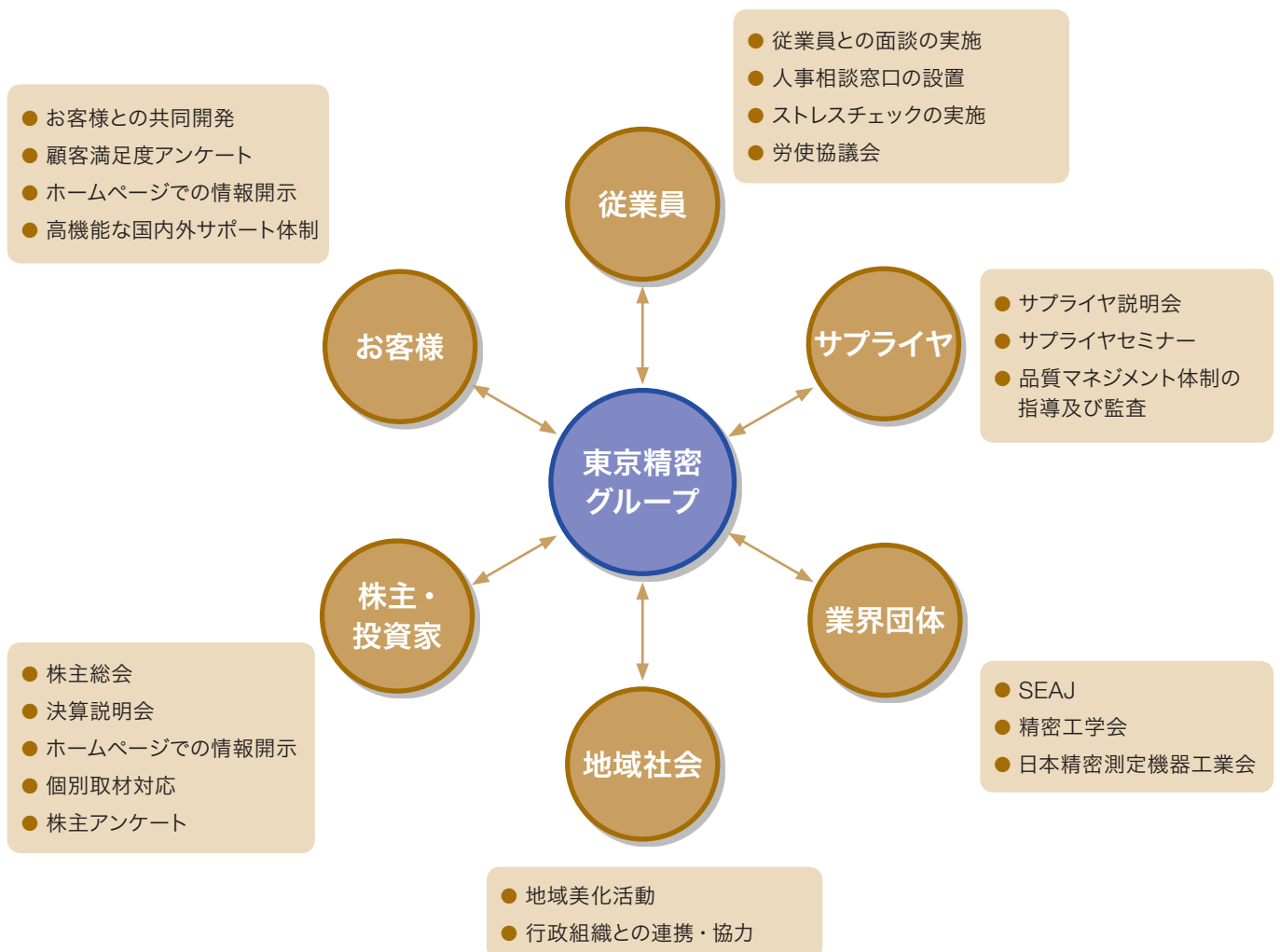
ステークホルダーの真のニーズは、真摯なコミュニケーションによってこそ共有できるものです。そのためには事業活動のプロセスをつぶさに検証し、そこからステークホルダーに対する影響や責任を明らかにしていくことが必要です。

これからもステークホルダーとともに成長していくために、この検証を繰り返し、コミュニケーションのチャンネルを広く創出していくことで、深い信頼関係の構築を目指していきます。

当社の役割は、お客様が社会のニーズに応じて新しい挑戦を行う際に、その手段を提供することです。サプライヤ様やお客様とともに技術開発を行う中で、WIN-WINの関係を構築し成長してきました。また、それらのイノベーションは従業員の能力と情熱によっても支えられてきました。もちろん、新たな先端技術開発への投資は、株主・投資家の皆様や地域社会からのご理解・ご支援に支えられてきたことは言うまでもありません。

東京精密グループは、今後もお客様の新しい挑戦を支援する強力なパートナーであり続け、サプライヤ様とのより密接な協働とともに成長し続けるために、従業員の能力開発を進めるとともに、各ステークホルダーとのコミュニケーションを更に深化させていきます。

## ▶ ステークホルダーとのコミュニケーション





東京精密グループは、透明性の高い経営システムの構築・運営に努め、持続的な成長と中長期的な企業価値向上を目指しています。

## コーポレート・ガバナンス

### ■ コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

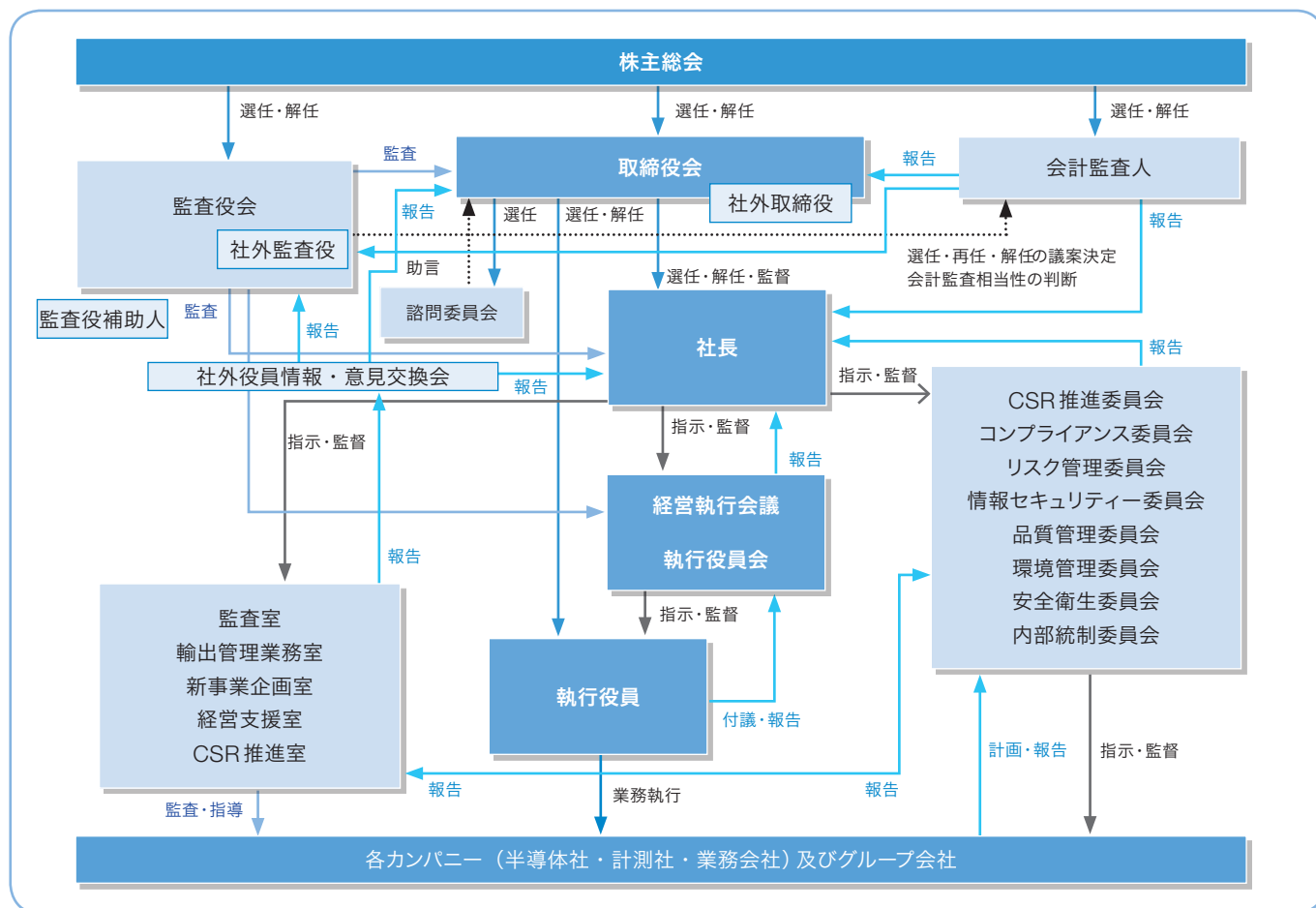
東京精密は、「世界中の優れた技術・知恵・情報を融合して世界No.1の商品を創り出し、皆様と共に大きく成長していく」ことを企業理念としています。この企業理念をコーポレートブランド「ACCRETECH(アクレーテック)」のもとで実践することで、持続的な成長を実現し、企業価値を高めていくことを目指しています。

その実現のためには、国際社会から信頼される企業市民として、公正で透明性の高い経営活動を展開していくことが不可欠と認識し、コーポレート・ガバナンスの充実に基本方針を掲げて取り組んでいます。

### 基本方針

1. 透明性・公正かつ迅速・果敢な意思決定を行うため、取締役会の役割・責務の適切な遂行に努めます。
2. 株主の権利を尊重し、株主の平等性の確保に努めます。
3. 中長期的な株主利益を尊重する投資方針と株主との建設的な対話に努めます。
4. 株主以外のステークホルダー（お客様、サプライヤ様、従業員、債権者、地域社会等）との適切な協働に努めます。
5. 適切な情報開示と透明性の確保に努めます。

### ▶ コーポレート・ガバナンス体制



## ■ 内部統制に関する考え方

コーポレート・ガバナンスとコンプライアンスの強化に取り組むとともに、経営の健全性と透明性を担保するために、内部統制の体制とシステムを整備してセルフチェック機能を強化しています。

## ■ 内部統制システムの整備と体制

業務執行全体を適正かつ健全に行うために、取締役会が実効性ある内部統制システムの構築と法令定款遵守の体制を確立しています。また、監査役会は内部統制システムの有効性と機能を監査しています。

社長直轄の組織として設置している監査室では、東京精密グループの業務執行に対し、内部統制に関わる法令・定款及び会社規程等への準拠性、管理の妥当性の検証を目的とした内部監査を実施しています。IT統制についても、監査室が他部署・チームと協働して監査を実施しています。

また、監査室は東京精密グループの財務報告に関わる内部統制の整備・運用について、その有効性の評価を実施し、確認を行っています。

監査室の内部監査により、法令・定款及び会社規程等への違反またはその他の事由に起因したリスクが認められる業務執行行為が発見された場合には、監査室長は直ちに社長に報告し、取締役会で対応にあたります。

内部監査は、取締役会に承認された年間計画に基づいて実施され、その結果が速やかに社長に報告されるほか、取締役会や経営執行会議においても発表されます。また、監査結果や改善点につきましては、社内関係部署に情報共有されます。

## コンプライアンス・リスク管理

### ■ コンプライアンス管理体制

東京精密グループのコンプライアンスに関する取り組みの管理組織として「コンプライアンス委員会」を設置しています。コンプライアンス委員会のメンバーは、取締役・執行役員を中心に、生産・技術担当役員、人事担当役員、グループ会社の役員等で構成されています。企業倫理・行動規範の制定や、コンプライアンスの教育・研修、取り組み状況等の報告・審議とともに、法令・規程・倫理などへの違反もしくは抵触の恐れがある場合は対策を行っています。必要に応じて再発防止策の審議等を行っています。

### ■ 内部通報制度

内部通報制度としてコンプライアンス相談窓口を整備し、運用しています。

相談窓口は、①コンプライアンス委員、事務局、②人事相談室、③社外弁護士、④社外取締役、監査役と、社内外に設けられ、通報者の匿名性の確保とプライバシー保護を徹底するとともに、通報者の不利益にならないように配慮しています。

## ■ コンプライアンス教育

コンプライアンスの徹底には、守るべき法令・ルールを理解と、守らなければならないという意識を、全ての役員・従業員に周知徹底することが必要となります。コンプライアンス意識の向上及び高い意識レベルの維持のために、さまざまな教育の機会を設けています。「新入従業員研修」や「管理職研修」など、階層別の研修機会を捉えた教育とともに、日本国内においてはe-learningによる研修の仕組みも導入しています。現場での安全・衛生研修での関係法令遵守教育や品質・環境管理に関する法令遵守の徹底にも努めています。

さらに、サプライヤ様との関係については、下請取引等に関する勉強会を行っています。

## ■ コンプライアンスに関する取り組み

### 安全保障輸出管理プログラム

東京精密グループでは、国際的な平和及び安全の維持を目的とする安全保障輸出管理を適切に実施するために「安全保障輸出管理プログラム」を策定し、実施しています。さらに、プログラムを遂行するために「貿易関連業務に係わる法令順守規則」を制定し、製品や部品などの輸出に関わる法令遵守の徹底を行っています。

また、外国為替及び外国貿易法をはじめとする輸出関連法規の最新情報を常に入手し、関連業務に従事する役員・従業員に周知するとともに、該非判定や取引審査などを含む社内規程で定めた輸出管理プロセスの遵守を求めています。さらに、輸出入管理業務や、海外に赴任する従業員への貿易実務の教育にも力を入れています。

東京精密は2009年3月、セキュリティ管理とコンプライアンスに優れた輸出者として、AEO※(認定事業者)制度に基づく「特定輸出者」の承認を東京税関から受けています。

『輸出管理プロセス』のe-learningプログラムを自社製作し、役員を含む全社員が受講しました。グループ会社の輸出関連業務担当者にも展開する計画です。

また、東京精密はSEAJ(半導体製造装置協会)貿易専門委員

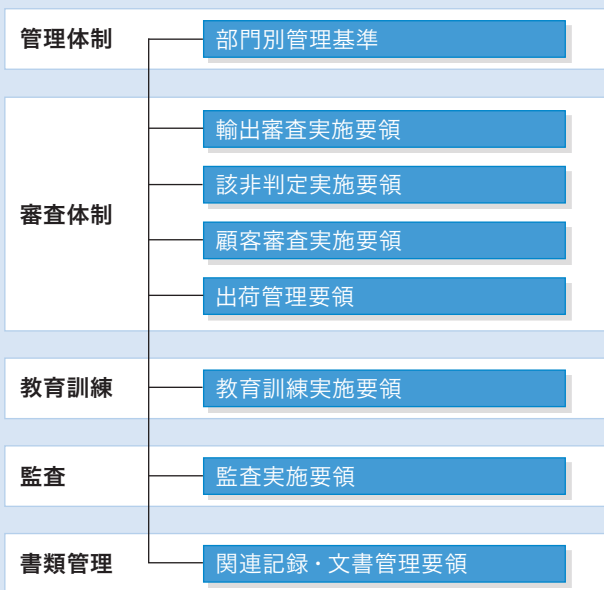
※ AEO (Authorized Economic Operator) :

税関での輸出入に関する手続きについて、検査の簡素化などの優遇措置を受けられる民間企業で認定事業者と呼ばれる。過去一定期間内に法令違反歴がないこと、適正かつ確実に業務を遂行できること、法令遵守規則の整備と実施が承認の要件とされる。



会の委員長を務めており、2016年度は会員企業への『安全保障輸出管理』のセミナーを実施しました。

### 安全保障輸出管理プログラム



### 法令等遵守状況

内部監査・外部機関による評価等を実施した結果、2016年度は財務報告の適正さ、製品の品質・環境に対する取り組み等に関し、不正行為や法令違反等の事業活動に影響を与える問題はありませんでした。

### ■ リスク管理体制

東京精密グループのリスク管理に関する取り組みの組織として「リスク管理委員会」を設置しています。リスク管理委員会のメンバーは、代表取締役社長CEOを委員長とし、委員長の選任を受けた各社内カンパニーの執行役員と子会社取締役で構成されています。各リスク主管部署等より、潜在的なリスクの発生予防について報告を求め、必要に応じて取締役会に報告するとともに、リスクが顕在化した場合は、直ちに「リスク対策本部」を設置します。

### ■ リスクに対する取り組み

#### 事業継続管理

自然災害や事故等が発生した際は人命を第一としています。また、重要事業等が中断しても、可能な限り短期間で事業を再開し、お客様の操業に滞りが起きないように努めることは、企業としての重要な責任と考えています。

東京精密では「事業継続計画」及び各「工場BCP」を策定し、緊急時の行動を定めています。

また、平時においては業務の状況を踏まえたリスクアセスメント及びリスク予想に関する変化の観察に基づき、各部門BCPの見直しを行うとともに、建物の耐震強度確認や拠点の整備、日常の安全確保活動・教育を行い、毎年その結果をリスク管理委員会に報告しています。

#### 事業継続基本方針

- 従業員とその家族の安否確認・安全確保、および地域における人命保護・救助・復興活動を最優先する。
- 顧客の操業維持に必要な部材等の供給維持を優先する。
  - ① 精密切断ブレードの供給維持
  - ② 装置修理サービス業務と必要なパーツ等の供給維持

東京精密グループでは、災害・事故発生時に携帯電話やスマートフォンから安否状況を確認する「安否確認システム」を導入しています。

#### 情報セキュリティー

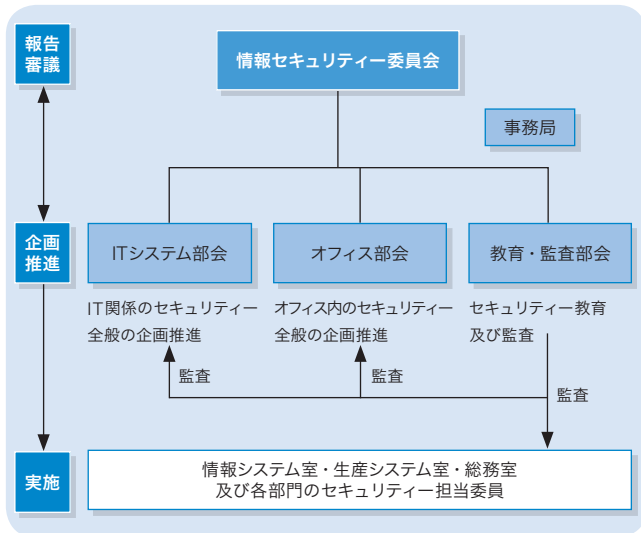
経営のグローバル化・情報化の進展に伴い、知的財産及び顧客情報等の情報管理の重要性が増し、企業の体制整備と管理強化が求められています。

2004年に取締役会が選任する委員長（取締役）を最高責任者とする情報セキュリティー委員会を設置し、情報セキュリティーの強化を進めています。

情報セキュリティー委員会は情報セキュリティーの基本方針の策定と情報セキュリティーポリシーに基づく各種規程の整備、実行の指導・監督を行っています。

電子情報以外の取り扱いや、セキュリティーを担保するために、情報セキュリティー委員会の下にITシステム部会、オフィス部会、教育・監査部会の3部会を設け、徹底に努めています。

▶ 情報セキュリティ委員会と機能



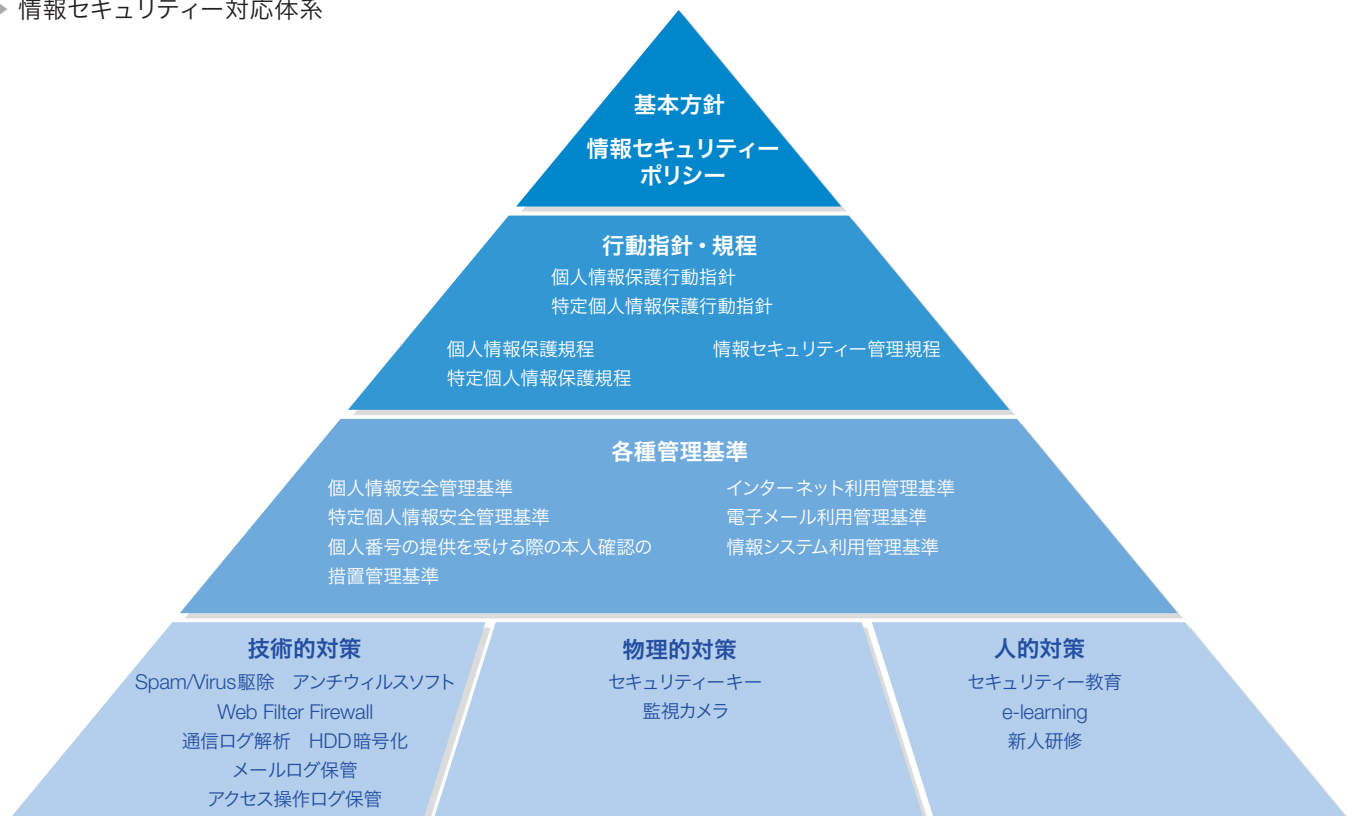
情報セキュリティ対策

標的型攻撃やランサムウェアなどサイバー攻撃の脅威が増す中、人的な対策として最新の脅威についてe-learningなどを用いて全従業員に対して定期的な研修を実施するほか、従業員向けのポータルサイトに脅威の情報を掲載し、情報共有、注意喚起を促しています。

同時に、標的型攻撃を想定した訓練を2017年に2回実施し、標的型攻撃に対するセキュリティ意識の向上に努めてまいりました。

また、技術的対策として最新の脅威に対抗できる最新のセキュリティ機器を新たに導入し、入口・出口対策に加え、マルウェアの怪しい挙動を検知・把握できるようにし、セキュリティリスクの低減に取り組んでいます。

▶ 情報セキュリティ対応体系



# お客様とのかかわり



お客様の声に真摯に耳を傾け、日々弛まぬ改善を続けながら、最先端技術を駆使した半導体製造装置・精密測定機器の供給と充実したサポートでお客様のものづくりを支え、持続可能な社会の実現に貢献します。

## 品質管理の取り組み

### ■ 品質に関する基本的な考え方

東京精密のお客様はものづくり企業であり、当社の提供する価値は“お客様の生産性”と“お客様の生産する製品の正確さと信頼性”です。即ち、「東京精密はお客様の価値創造の手段を提供している」ということを大変重く考えています。

安定した高い品質やサービスの提供こそが、お客様の社会的地位や利益を守り向上させていく当社の責任であることを常に念頭において、「製品品質の維持・向上」「グローバルで高機能なサポート体制」「製品やサービスに対するお客様の満足と信頼」を心がけています。

### ■ 常に改善・強化し続ける品質管理体制

1994年に八王子・土浦工場一括でISO9001を取得するため、それまでに行われてきた膨大な品質保証の取り組みを体系化し認証取得をしました。認証取得後、厳格な品質管理システムのもと、品質リスクの撲滅に挑戦し、改善活動をシステム化しています。

2015年9月にはISO9001が改定され、ISO9001:2015が制定されたことに伴い品質システムの見直しを行ないました。2016年度からはISO9001:2015規格要求に対応する品質管理システムの構築に着手し、2017年度から運用を開始しています。新しい品質管理システムでは利害関係者のニーズや内部・外部の課題及びリスク管理に取り組むため、品質方針を改定し工場毎に品質目標を設定し品質パフォーマンスの向上に取り組む体制を構築しています。2017年度は両工場にて運用実績を積み、2018年春にはISO9001:2015の認証を取得する予定で品質管理活動を進めています。

品質内部監査員資格者は2016年度末現在で八王子工場に26名、土浦工場に16名を配し、毎年各1回の監査員教育と更新試験を実施して資格者スキルの維持・向上を図っています。

2016年度はISO9001:2015への改訂内容について臨時的追加教育を行いました。

### ■ 品質方針

(株)東京精密 品質方針

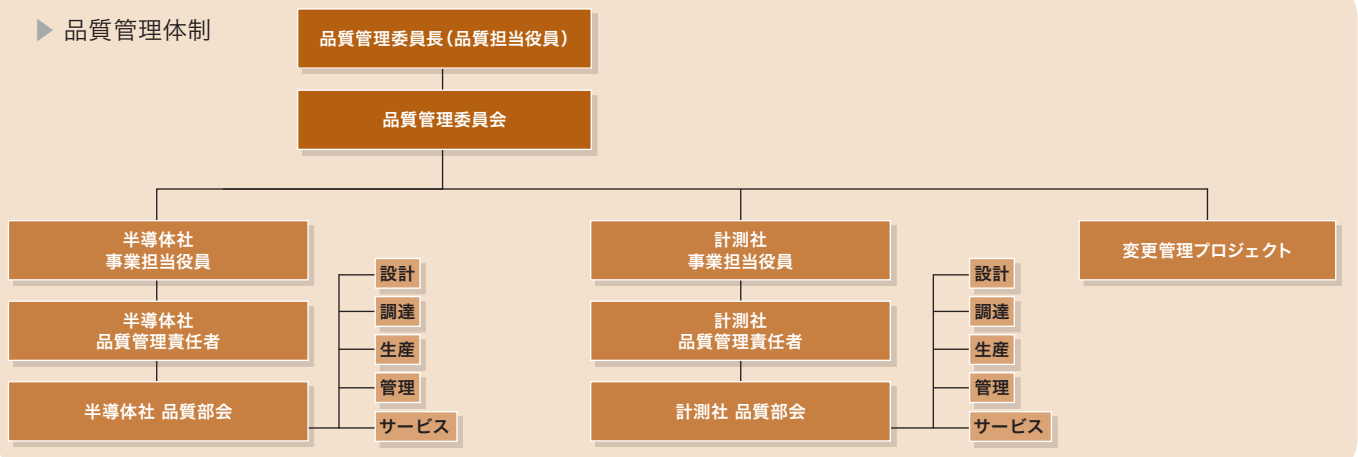
基本理念

WIN-WINの仕事で世界No.1の商品を創ろう!

方針

1. 製品及び生産において法令・規制要求事項を遵守するとともに顧客要求事項を満足することを第一義として社会に貢献する。
2. 毎年度はじめに、カンパニーごとに、前年度の品質目標(重点目標)の見直しを行い、新年度の品質目標を設定して製品品質の向上に取り組む。
3. 品質マネジメントシステムのパフォーマンスの向上及び有効性に対する継続的改善を実施する。
4. ユーザーとのパートナーシップの確立による、よりUSER FRIENDLYな商品開発をおこなう。
5. トータルな品質管理(TQC)による品質向上を目指す。
6. 協力会社とのパートナーシップによる品質向上を目指す。
7. ビジネス、技術及びサービスの顧客サポート体制を拡充する。
8. 製品実現プロセスの各工程において安全、品質、信頼性のつくり込みを行い、安定供給に取り組む。
9. 品質マネジメントシステムの適用範囲は半導体社、計測社の活動、製品、サービスを対象とする。
10. この「品質方針」は社内外に開示する。

#### ▶ 品質管理体制





2016年8月に 航空・宇宙及び防衛分野のマネジメントシステムJIS Q 9100 の認証(認証範囲：受託部品の形状測定。組織名：計測社土浦工場)を取得しました。これにより、航空・宇宙・防衛分野におけるワーク測定、お客様からの受託(委託)測定にお応えができることになり、より広い範囲の精密測定ニーズに貢献していきます。

### 品質状況報告会議

品質担当役員が参加する品質状況報告会議を毎月開催し、品質に関する課題やその対策の妥当性や効果について審議しています。また他の装置への展開や横断的な対策の実施、組織的な取り組みのリソース配分等、その場で役員決定を受けて迅速に対処できる会議体として機能しています。

### トラブルの真の原因追及アプローチと再発防止策/横展開

当社では、発生した問題の真の原因を追及するためのアプローチ方法として“なぜなぜ分析”<sup>\*</sup>を採用し、共通の思考ツールとして理解を深めて活用しています。原因については、根本原因、流出原因、システム(仕組み)原因の3つの要素に対して分析を実施しています。最終的には根本対策、流出対策、システム(仕組み)対策まで導き出して再発防止を実施しています。また、想定できる類似の事象については、事前に対策を横展開し、類似問題の予防措置に努めています。

<sup>\*</sup> なぜなぜ分析：ある問題とその問題に対する対策に関して、その問題を引き起こした要因「なぜ」を提示し、さらにその要因を引き起こした要因「なぜ」を提示することを繰り返すことにより、その問題への対策の効果を検証する手段。

### 継続的な改善活動

東京精密には改善提案制度、小集団活動制度があり、高品質で合理的な生産手段を求めて、また、信頼性と質の高いサービスを提供するために、常に継続的な改善活動を行なっています。

土浦工場における小集団活動は、1997年より活動を開始し21年目となります。当初は生産性向上や品質管理を目的として行われてきましたが、早々に活動範囲を間接部門まで拡大して活動を継続してきました。2016年度は26チームが活動し、46テーマを完結しています。

改善活動に対してはそれぞれに半期毎の表彰制度があり、活動成果の共有を図っています。

また、各工場間で従業員が相互に工場を見学し、これらの改善の創出プロセスやその成果を共有して工場間の協力体制を密にしています。

### 変更管理の強化

設計変更や製造工程や作業方法の変更によって発生する不具合リスクを評価しその対策を実施することで、不具合の未然防止に努めてきました。

2016年度はISO9001：2015への移行を進める中で、変更管理の要求が明文化されたことを受けて、管理基準を強化する規程整備と適応作業を進めてきました。具体的には厳格な変更管理規程を制定し、リスク管理表や業務フローについて標準化を完了しました。2017年度はトライアル活動を実施し、変更管理規程の完成度を高めて、実運用へと移行しました。

管理基準の強化により、変更に伴う不具合発生リスクを低減し、不具合の未然防止に努めています。

## 顧客満足追求の取り組み

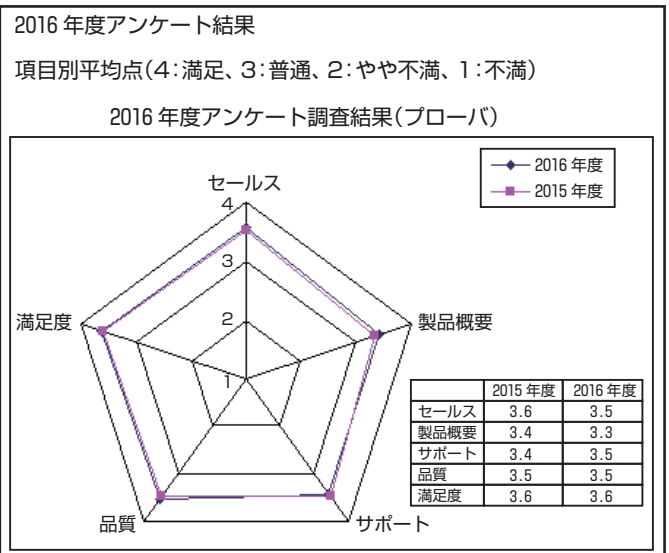
### ■ アンケート調査に基づく改善活動

2016年度も顧客満足度アンケートを実施しました。

集計結果より、評価点の低い項目については、各担当部署にて具体的な取り組みを進めています。アンケートの集計結果の中から、当社の主要製品であるプローバのチャート为例として掲載します。アンケートの配布・回収は、現在メールベースで行っていますが、より多くのお客様の声を集めて改善活動に反映するため、アンケートのWEB化を計画しています。

WEB化を図る事で、記載漏れ等の問題をなくし、お客様がより簡単にアンケート入力できるように改善を進めております。

2017年度のアンケート調査から導入を計画しています。





## グローバルで高機能なサポート体制

### ■ サービス品質の要素抽出(半導体製造装置事業)

グローバルサービス部門は、顧客満足度アンケートの分析等により、お客様が求めているサービス活動に対する品質要素を「正確性」「迅速性」「信頼性」「共感性」「好印象」と判断し、各担当者のサービス品質が高水準で安定して提供できるよう、前述の要素毎に必要な知識やコンピテンシーを整理して新しいコンテンツによるスキルアップ教育を開始しました。

同時に、育成が比較的容易な納入業務に特化したセットアップチームを発足してトラブルシュートやお客様へのフィッティングを得意とするベテランの負荷を軽減し、丁寧な顧客サポートや後進の指導に当たるよう、リソース管理を行っています。

### ■ 海外の現地技術者の研修(精密測定機器事業)

測定機器のグローバルサービス部門では、従来より各国の現地技術者を土浦工場内のメトロロジ（計測）センターに召集し集中的な研修・訓練を行っており、2016年度は13カ国46人の現地技術者の訓練を行ないました。毎年、着実に規模を拡大しており、今後もグローバルサービス体制の強化に努めていきます。

● **半導体製造装置事業**：2013年より東京精密グループの海外法人から研修生を受け入れて駐在させており、基本的な駐在期間を1年間とし、開発担当エンジニアとともに業務を行うことでアプリケーション能力の向上と東京精密の文化の共有を図っています。研修生との協働は国内従業員の現地文化の理解やコミュニケーション力の向上、英語力向上にも役立っています。

また、駐在中に日本語学校にも通い、日本の風土や文化への理解を深めて、現地と東京精密のパイプ役になっています。

● **精密測定機器事業**：2011年より東京精密グループの海外法人及び協力会社から研修生の受け入れを開始しました。研修生には、メトロロジ（計測）センターで経験年数に応じて数週間から3カ月程度の研修期間中に、納入・保守作業やアプリケーションの教育を行い、一定基準に達したエンジニアに修了証を授与しています。

### トラブルシューティングマニュアル・手順書等の多言語対応

半導体製造装置のお客様のほとんどが英語を公用語として使用していますが、測定機器はご使用いただく環境やシチュエーションも多岐に渡ります。このため、お客様による日常点検やトラブルシュートを可能とするために、各国語のトラブルシューティングマニュアルや各種手順書の整備を進めています。

2016年度は新たに10種類のマニュアルを作成し、8ヶ国語に翻訳してリリースしました。

#### ▶ グローバルサポート体制

## 世界に広がるセールス・サービス・ネットワーク

Accretech (Europe) GmbH

Accretech Korea Co., Ltd.

Accretech (China) Co., Ltd.

Tokyo Seimitsu Co., Ltd.

Accretech America Inc.

Accretech (Thailand) Co., Ltd.

Accretech Taiwan Co., Ltd.

Accretech (Malaysia) Sdn. Bhd.

Accretech Vietnam Co., Ltd.

Accretech (Singapore) Pte. Ltd.

PT Accretech Indonesia

Accretech do Brasil Ltda.

## ■ お客様間の価値創造を加速させる最先端拠点と支援活動

東京精密の原点であり、事業の2本の柱の1つである精密測定機器ビジネスは、『測れないものは作れない』を合言葉とし、単に測定機器を提供するのではなく、社会に精密さや信頼性を提供する「ものづくりの原点」と考えています。

全ての「ものづくり」は“測る”というプロセスなしには成り立ちません。また、正確に“測る”ことは私たちのお客様が社会に信頼される製品を提供するために不可欠な作業です。この思いをより大きく社会に届けるために、以下の取り組みを行っています。

### メトロロジ（計測）センター

2008年11月に、それまでのショールームを一新し、「計測と云えば東京精密」と世界のトップブランドの地位を確立すべく、土浦の精密測定機器工場敷地内に、「メトロロジ（計測）センター」を開設しました。

このセンターでは、来訪されたお客様の課題に応えるさまざまな測定機器や計測手法を体験いただけるとともに、ソリューション提案や当社製品の操作トレーニングの機会提供といったさまざまな機能を提供しています。「来て見て良かった」、「感動した」、「またぜひ来たい」と喜んでいただいております。お客様の価値創造の実現に実績を上げていることから、2017年8月に八王子工場内にも「メトロロジ（計測）センター」を開設し、より多くのお客様に便利にご来場いただける体制を整えました。

土浦の同センター内には「集中コールセンター」を置いて、計測に関する相談や製品の取扱い、トラブルシュートの支援等を電話で行っており、2016年度の対応件数は8,897件でした。

#### ▶ メトロロジ（計測）センターの機能

<p>ソリューション提案</p>	<p>各種測定機器や計測方法の説明、測定機器の操作トレーニング等を通して、お客様のご要望や解決したい課題に向けて、さまざまなソリューションの提案を行っています。</p> <p>また、測定機器を設置されていない、測定機器が計測に対応した機能を有していない等で自社内での計測が行えない場合、当社が代行して計測を行う「受託測定」も行っています。</p>
<p>お客様サポート</p>	<p>定期開催のトレーニングスクールによる計測指導やコールセンターによる日々の計測アドバイス等で、当社測定機器をご購入いただいたお客様をサポートしています。</p> <p>また、海外拠点のサービスエンジニアに対するトレーニングを行い、測定機器の納入後も良質なサポートサービスを提供できる体制を整備し、お客様との一生のお付き合いを目指しています。</p>



八王子メトロロジ（計測）センター

<p>当社製品・計測についての「学びの場」</p>	<p>当社測定機器をお持ちのお客様、当社測定機器を取り扱っていただいている商社・特約店、大学・高専・地元工業高校、地域の企業等を対象に、見学会・製品勉強会・計測セミナー等を開催し、計測について理解を深めていただくとともに、多種多様な製品展示を通じ製品理解を図っています。</p>
---------------------------	---

### アプリケーションチームの活動

計測社のアプリケーションチームは全国からの依頼を受けて講習会や講演会、計測指導等を行ったり、お客様のリクエストによる展示会やオープンハウスを積極的に開催しています。

#### ▶ アプリケーションチームの活動実績（2016年度）

<p>公的機関での講習 / 計測指導 (9回)</p>
<p>セミナー、講演会等 (10回)</p>
<p>プライベートショー、オープンハウス等 (11回)</p>
<p>トレーニング実施 (176回)</p>

\* ( )内は2016年度の実施回数

# サプライヤとのかかわり



全てのサプライヤの皆様とWIN-WINの関係を深められるよう、社会的責任を重視したサプライチェーンを構築し、ともに持続可能な成長を目指します。

## 調達にあたっての基本的な考え方

東京精密は、お客様に高機能で高品質な製品を提供するにあたり、必要となる材料や部品・サービスを提供いただく全てのサプライヤの皆様を大事なパートナーと考えています。そのサプライヤ様とのWIN-WINの関係の構築には、品質はもとより、環境や労働・安全衛生、倫理面を含めた社会的な責任をサプライチェーン全体で果たしていくことが不可欠です。

それぞれのサプライヤ様が国際社会のニーズに応える責任ある企業として自律し、当社とともに協働していくことで、サプライチェーン全体を強固なバリューチェーンとして、付加価値の高いものづくりを進めていきます。

## 調達にあたっての協力依頼事項

調達にあたっては、EICCの要求に準拠し環境や国際社会の要求事項に対応するために、サプライヤの皆様さまにさまざまな協力依頼をしています。

### ■ 紛争鉱物

紛争鉱物※を使用した原材料及びこれらを含有する部品・部品などを排除していく方針です。そのため、サプライヤの皆様へは、紛争鉱物に関わるサプライチェーンのリスクについての実態調査等へご協力をお願いしています。ブレード製品の原料については、既に精錬所の特定まで完了しており、今後は装置の部材についても順次調査を進めていきます。

※紛争鉱物：紛争地域及び高リスク地域で採掘される特定の鉱物及びその派生物。その採掘が児童労働や強制労働などの人権侵害、紛争の資金源になると指摘されている。

### ■ グリーン調達

部品、加工・組立の調達においては、環境に配慮した活動をしているサプライヤ様から、環境負荷の少ない部材を優先的に調達することにより、サプライチェーン全体の環境保全を図っています。当社で定めた「グリーン調達基準」をお取引をする全サプライヤ様に公開し、協力をお願いしています。

### ■ 含有化学物質管理

調達部材に含有される化学物質について、厳格な管理と報告をお願いする旨の説明会を行い、これまでに400社超のサプライヤ様にご参加いただきました。

2016年度から本格稼働を開始し、クラウドを利用したシステムを使ってRoHS指令、REACH規則等に対する調査を実施しています。

計測社製品については2017年7月よりRoHS指令に対応しており、EU地域への輸出については100%適合品を出荷しています。

半導体社製品は、大規模据付型産業用機器(LSSIT)としてRoHS指令適用除外となっていますが、順次対応を進めています。

### 環境負荷の少ない部材の調達に関する協力依頼事項

1. 環境関連法規の遵守
2. 化学物質の管理
3. 有害物質の調達品への含有禁止、または使用の削減
4. 省資源への配慮
5. 省エネルギーへの配慮
6. 包装・梱包への配慮
7. 廃棄物の削減・再資源化への配慮

### ■ 品質及び環境管理システムの審査・向上

ISO9001及びISO14001の取得、またはそれに準ずる管理システムを有しているサプライヤ様のみと取引を行っています。

毎年数社を監査して改善の指導等を行っており、調達した部材に不良品が発見された場合は、サプライヤ様の生産工程で起こった不良の原因特定と是正対策をともに考え、再発防止の措置を実施してサプライチェーン全体の品質・環境管理の向上に努めています。

## サプライヤ様との協働体制

### ■ SCM推進部会の活動

東京精密では2016年度、『SCM※推進部会』の活動として、「SCMチェックシート」による調査を開始しました。

サプライヤ様を直接訪問して「SCMチェックシート」の設問の意図や必要性についての説明を行った上で、各設問に対する対応状況や困難事由などを伺い、課題解決のための支援を話し合うなど、今後の協力関係をより密接に進めることで、サプライチェーン全体によって社会的責任を果たしていくことを確認しました。

※ SCM: サプライチェーンマネジメント(Supply Chain Management) 原料・材料が部品や半製品に加工され、最終製品が生産されて顧客に提供されるまでのモノの流れのことを「サプライチェーン(供給連鎖)」と呼び、この一連の流れの管理をサプライチェーンマネジメントという。



(株)指田製作所様にてお打合せ

### ■ サプライヤ研修会等の実施

「ACCRETECH協力会」では賀詞交歓会や研修会を実施しており、この中で業界動向、生産計画、市場や社会のニーズ等の情報提供・情報交換を行っています。

2015年度の研修会でCSRの考え方を紹介し、児童労働や強制労働の排除など人権や環境への配慮について説明し、サプライチェーン全体で、ともにCSRを果たしていく旨の協力をお願いしました。

2016年度の研修会で、アンケート調査を協力会社に依頼し、回答を集計しました。その結果と内容説明を行った上でCSR活動への更なる協力を依頼しました。

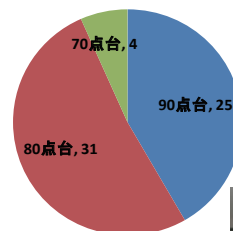
ACCRETECH協力会でのアンケート結果は以下のようになりました。

平均点は100点満点中88.4点で、90%以上のサプライヤ様が80点を超える高得点でした。

点数の低い項目は、以下の通りです。

1. 女性活躍の推進状況
2. 生物多様性
3. 緊急事態発生時の事業継続計画
4. 非常用発電設備

これらについて協力して改善を進めています。



サプライヤ向けCSR説明会

# 従業員とのかかわり



従業員が一人ひとりの能力を最大限に発揮できるよう、活力ある職場環境の形成と人材の育成に取り組んでいます。

## 雇用・人材活用

### ■ 雇用・人材活用に関する考え方

多様な人材がその視点や価値観を尊重し合うことで、相乗効果による新たな価値創造を目指します。ダイバーシティの促進に努め、女性や障がい者の職域拡大を図ったり、グローバル採用のチャンスを拡大するなど、人種、宗教、出身国、性別、障がいなどに基づく差別を排して広く人材を募っています。また、ワーク・ライフバランスの調和を進め、心身ともに健康で安全な職場環境で職域と生活の両面における充実と成長を促します。

人材育成においては、自発的な気づきを促す各種の研修や、必須受講とカフェテリア形式を合わせたe-learningを提供するなどして能動的な人材の育成に努めており、優れた環境で多様な人材によって創出されるイノベーションにより持続的に成長し続ける環境の実現を目指しています。

### ■ ダイバーシティの促進

互いの生活環境や価値観を慮る習慣の醸成や、多様性を受け入れる環境や制度の整備を行っています。

中でも女性の雇用を中心に位置付け、職域の拡充やキャリアアップの指導、及びライフイベントへの柔軟な対応など、女性の活躍を推進する活動に注力しています。

### 女性活躍推進の取り組み

女性が活躍しやすい職場環境の整備に取り組むと同時に、積極的な女性の雇用を行っています。育児休業制度や育児短縮勤

務制度などは法定基準を超える水準で整備し、個別の実情に合わせて柔軟に運用されています。

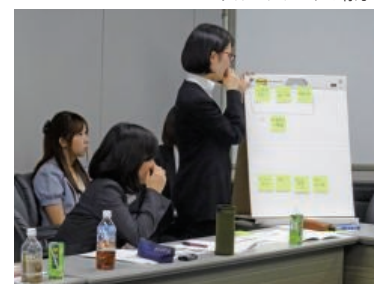
### ACCRETECH『女性活躍推進宣言』

東京精密では、2016年3月に女性活躍推進に関する行動計画を公表し、その達成に向けて活動を推進しています。従業員一人ひとりが能力を最大限に発揮できる職場環境の実現と充実を図るため、女性活躍推進をダイバーシティ経営戦略の中核として位置付けて具体的な施策を開始しました。2017年4月には、ACCRETECH『女性活躍推進宣言』を公表し、女性の雇用促進、ダイバーシティ研修、女性従業員座談会などの施策を実施すべく活動を推進しています。



キャリアデザイン研修

キャリアデザイン研修  
グループワークの様子



#### 女性活躍推進に関する行動計画

##### ● 目標

1. 新卒採用の応募者に占める女性割合を30%以上とする
2. 女性正従業員の採用割合（新規学卒、高卒、中途採用合算）を全体の20%以上とする（内定者ベース）

##### ● 行動計画

1. 女性の応募割合、採用割合を増やす方針や目標の設定
2. これまで女性が採用、配属されなかった部門・部署における配属の可能性検討及び女性がいないまたは少ない部門・職種等への女性の積極的な配置検討
3. 年度ごとの新卒採用計画策定における積極的な広報方法の検討
4. 女性が満たしにくい募集・採用基準や運用の見直し（性別にかかわらず公正・公平な採用選考を行うため）
5. 女性従業員が自身のキャリア形成に対する意識を醸成するための研修実施、上司からの働きかけ
6. 女性従業員一人ひとりのキャリアプランを本人と上司で作成し、中長期的な視点で育成を行う
7. 管理職に対する女性部下育成に関する意識啓発
8. 管理職に対するワーク・ライフ・バランスやダイバーシティマネジメントに関する意識啓発

## グローバル人材の採用促進

外国籍従業員の採用は、国内及び海外でも積極的に行っています。また、新卒・中途を含め、自ら異文化に飛び込んで吸収する日本人の採用に努めています。

### 外国籍従業員のサポート体制

- 土浦工場・メトロロジー（計測）センター内に海外サービスチームを設立し、マネージャーを配置して各国サービススタッフのハブとして諸活動の調整を行っています。同マネージャーは海外従業員、日本人駐在者のプライベートな相談にも対応しています。
- 設計・開発職や営業職、及び海外のサービススタッフにおいて、積極的に外国籍従業員の採用機会を増やしてきました。また、製造の現場にも外国籍従業員の職域を拡大していくため、工場内の掲示物や案内について、「日本語が母語でない方の目」で見て十分に機能するよう考慮しています。

## 障がい者雇用の促進

東京精密では、ハンディキャップを持った従業員がさまざまな業務に携わっています。これからも、積極的に障がい者雇用の拡大に取り組むとともに、安心して働ける環境づくりに努めていきます。

### バリアフリー対策

八王子工場に竣工した第6工場は、バリアフリー建築で多目的トイレを設置した障がい者対応工場です。これにより、障がい者の職域が拡大したため、今後はより一層積極的に障がい者雇用を進めていきます。



八王子第6工場 多目的トイレ

## ■ ワーク・ライフバランスの調和

### 労働時間の削減

東京精密の2016年度の年間の所定労働時間は、「2016年度労働時間総合調査」の2016年度所定労働時間\*を約4%下回る1,832.3時間（年間休日日数126日/2016年度）となっています。

総労働時間を削減するための施策として、2017年2月より毎週水曜日と賞与支給日を定時退社日とし、社内放送によって従業員の定時退社日に対する意識の醸成を行っています。

また、やむを得ず休日出勤をした場合の代休取得の徹底や長期休暇制度の利用状況を管轄部門にて把握することで、年間労働時間の削減と休暇取得促進に対して積極的に取り組んでいます。

※労政時報 第3917号「2016年度 労働時間総合調査」の2016年度年間所定労働時間は1,902.65時間、休日日数は120.3日。

### 休業制度

育児休業制度・短縮勤務制度・介護休業制度は、法定基準を上回る独自の制度を設けて従業員の子育てや介護を支援しています。正規従業員のみならず非正規従業員もこの制度を利用できるようになってきました。

また、病気や怪我の長期療養の休業に対しても最大で2年半の補償制度を設け、安心して治療に専念できる制度になっています。

### 長期休暇制度

毎年度、任意の期間に連続5営業日の「長期休暇」を取得する制度を採用しており、取得率の向上を促しています。

### リフレッシュ休暇制度

一定の勤続年数、年齢を満たす従業員に対して、2週間の「リフレッシュ休暇」と「お祝い金」を付与しています。長期のリフレッシュ期間を得ることで、業務の充実にもつながる好循環となっています。

### 福利厚生

従業員の多様なニーズやライフスタイルに合わせ、幅広いサービスを利用できるように、総合福利厚生サービスの会員制度を導入しています。また、全国に会員制ホテルを展開するサービス会社と法人契約することで、宿泊施設を安価に提供し、従業員の余暇の充実を支援しています。



## ■ 人材育成の推進

### 教育・能力開発方針

人材教育の強化および組織能力向上を目的として、新入社員研修をはじめ、段階的な昇進の際に社内教育を行っています。基本的には日頃の職場での自己啓発を進め、立場が変わればミッションや見方も変わることへの自発的な気づきを促すことで「自分で考えて、自分で動ける人材」を育成しています。

また、管理職と配下従業員との定期面談を制度化しており、チャレンジしたい業務やスキルの習得希望についても相談できるように運営しています。

### 各種研修制度

東京精密では入社時の初期研修から生涯学習まで、従業員の能力開発のためのさまざまな研修制度を設けています。集合研修や現場での製造実習研修のほかにも、2015年度からe-learningシステムを導入し、利便性の高い研修を従業員に提供しています。また、製品に関わる特殊な工具や機器、薬品の取り扱いなどにおいては、専門性の高い知識・技術が必要となります。教育・訓練記録を整備するとともに、一定の習得レベルの従業員には作業資格を与えています。資格認定記録は事業所ごとに管理し、年2回の内部監査において運用の妥当性を確認する際に活用しています。

#### ▶ 主な研修制度

主な研修制度	概要
新規受け入れ集合研修(入社時)	就業規則等主要規程、生活規範、安全・衛生・防災教育
開発・設計基礎研修(入社1年目)	技術職に配属の従業員は専攻を問わず、各種要素技術や機能部品についての製造実習を含む基礎学習
階層別研修	職階に応じた職位要件に沿った研修
職務スキル研修	工具や精密測定機器、基準器等の使用基準・要領等についての研修
女性活躍推進研修	管理職全員に対し「ダイバーシティの必要性」や「多様な人材の能力を引き出す環境整備」等を伝える研修
キャリアデザイン研修	女性従業員に対し「ワークライフバランス」や「キャリアデザインの描き方」等を伝える研修



女性活躍推進研修

## 労働安全衛生

### ■ 労働安全衛生の基本的な考え方

東京精密では、従業員が安心して働ける活力ある職場を目指して「従業員の心身の健康と安全」を第一に掲げ、安全・衛生・防災活動を推進しています。また、2016年度から全従業員のストレスチェックと職場傾向の集団分析を開始し、心身ともに健康で安全ないきいきと働ける職場づくりを推進していきます。

### ■ 安全衛生の推進

#### 安全衛生委員会活動

各工場長を安全衛生統括責任者とする安全衛生委員会を組織し、環境・機械・作業等に関わる労働安全や、感染・食中毒・メンタルヘルス・化学薬品等に関わる労働衛生、自衛消防や防災・減災行動、交通安全や救急救命等に対して取締役会で承認を受けた年間計画に基づいて活動を行っています。

#### 労働安全の取り組み

安全巡視による作業環境リスクへのアセスメントと対策、新規機械導入時や作業手順の変更時におけるリスクアセスメント等に加えて、機械運転や重機作業、電気配線作業等の教育・訓練を随時実施して危険回避に努めています。

#### 2016年度実施事項

※八王子工場：フォークリフト安全教育実施(17名受講)

※土浦工場：フォークリフト・玉掛け・クレーン安全講習会実施(42名受講)



八王子工場フォークリフト安全教育

### ■ 労働衛生の取り組み

#### 衛生巡視と5Sパトロール

毎週の衛生巡視に加え、毎月1回5Sパトロールを実施して職場の整理整頓を推進しており、2017年度から、採点制として高得点職場を表彰する取り組みを始めました。



また、保健所等の監査とは別に、従業員目線で社員食堂の厨房を巡視するなど、職場衛生の改善に努めています。

### 薬品・化学物質の取り扱い

管理・使用部署に定期点検および定期数量確認を義務付けるとともに、ISO14001の内部監査員資格者による定期内部監査に加え、安全衛生委員会組織下の規制物質管理委員会が保管庫のパトロールを行っています。

2016年度より化学物質のリスクアセスメントが義務付けられた後、新規に採用した化学物質および従来より使用していたもの見直し等、2016年度は両工場を合わせて11件のリスクアセスメントを行いました。

また、規制物質の取扱いを順次見直して厳格な取扱い基準を作成しており、2016年度は48件の新規取扱い基準を制定しました。

### 心身ともに健康な職場づくり

従業員の心身の不調は従業員本人やご家族だけでなく、職場や会社にとっても大きな痛手となり損失となります。健康への支援として、定期的な産業医面談の機会に加え、突発的な事情にも対応できる体制を整え、従業員をサポートしています。また、毎年実施するストレスチェックの組織診断結果を安全衛生委員会に報告して職場のストレスを軽減する衛生活動に結び付けています。

新たに『心の健康づくり計画』と『職場復帰プログラム』を策定中であり、心身ともに健康を維持できる施策を図っていきます。

### ■ 自衛消防と防災・減災の取り組み

各工場では自衛消防隊を組織して定期訓練を行い、毎年1度の火災や地震を想定した避難訓練を行う他に、年初計画に沿って可燃物や危険物の漏洩事故を想定した対処訓練を行って災害対応力を強化しています。

#### 2016年度実施事項

- \*八王子工場：第1工場1階の油漏洩事故想定訓練実施  
第2工場の地震による危険物・有機溶剤流出、  
ガス漏れ処置訓練実施
- \*土浦工場：ケミカル洗浄剤飛散時想定避難訓練  
非常用発電機の点検



自衛消防訓練審査会

### ■ 交通安全と救急救命の取り組み

各工場では社有車利用者と自家用車通勤者に対して、交通安全講習会の受講を義務付けています。また、毎年数名ずつ救急救命実習の経験者を増やし、緊急時の対応に対する備えを強化しています。

#### 2016年度実施事項

- \*八王子工場：八王子警察署による交通安全講習(164名受講)  
上級救急救命講習 3名
- \*土浦工場：土浦警察署による交通安全講習(200名受講)  
普通救命講習会受講 5名



八王子工場・交通安全講習

### ● 土浦工場連続無災害記録更新

土浦工場は高い水準の安全衛生環境を保ち、従業員が安心して働ける職場を作ってきました。2016年12月31日で連続27年無災害記録を樹立し、現在も更新中です。この取り組みを賞して土浦市の神立地区工業協議会より「無災害事業所」の表彰を受けました。

#### VOICE 塚田修一 土浦工場長

これまで土浦工場を牽引してこられた諸先輩皆様の活動実績に敬意を表し、同時に自分自身の責任の重さを痛感しつつ、尚一層、気を引き締めて安全衛生活動に取り組む所存です。

特別に難しいことをやるのではなく、土浦工場の重点目標である「健康と安全は全てに対して最優先」を「5S活動」、「挨拶励行」、「社内訓練」、「定期点検」を基本とした日常業務の中で社員全体に意識浸透させ、安全で明るい職場作りを目指します。



表彰を受ける塚田工場長(左)

# 株主・投資家とのかかわり



株主・投資家の皆様に東京精密への理解を深めていただけるよう、透明性の高い積極的なIR活動に努めています。

## 株主・投資家向け情報開示の考え方

株主・投資家の皆様に対し、業績・財務内容・経営戦略などの情報を正確に、分かりやすく、適時かつ公正にお伝えすることにより、企業の透明性向上に努め長期的な信頼関係を築いていけるよう努めています。

欧州を中心としてグローバルに拡大しつつあるESG投資の浸透や日本版スチュワードシップコード策定の流れを受け、非財務面での情報開示の拡充を念頭に、「CSR報告書」を発行することとしました。将来的には財務情報、非財務情報の関係性をより分かりやすくお伝えするべく、「統合報告書」による開示を目指しています。

## 積極的なIR活動

### ■ 株主総会

東京精密グループでは、毎年6月に本社のある東京都八王子市内で定時株主総会を開催しています。多くの株主様においていただけるよう、近年は「集中日」を避けて開催しています。

定款に従い代表取締役社長が議長となり、業績やマーケットの状況、東京精密グループの経営戦略、今後の業績見通し等を社長自ら説明しています。また、株主様からも多くの貴重なご意見・ご質問をいただく機会を設けることで、株主様と経営陣が直接コミュニケーションをとり、東京精密グループを深くご理解いただく場としています。

2017年度は6月26日に開催し、122人の株主様にご出席いただきました。

当社の強みや当面の需要状況、女性活躍のための方針や施策などについて質問があり、良質なコミュニケーションを行うことができました。

### ■ 株主通信

株主の皆様には年2回「株主通信」をお届けして、業績や話題・新製品情報をお伝えしています。

2017年7月の株主通信は、従来の2ページ構成に『株主向けアンケート(2016年12月～2017年1月実施)』の結果報告を掲載して4ページ構成で作成しました。アンケート結果はHPにも掲載しています。

<http://www.accretech.jp/ir/enquete.html>

### ■ 決算説明会

東京精密では、通期・中間決算の開示日を中心に機関投資家や証券アナリスト向けの決算説明会を開催し、社長自らが連結業績の状況や今後の見通し、東京精密グループの経営戦略などについて説明しています。

### ■ 個人投資家向け説明会

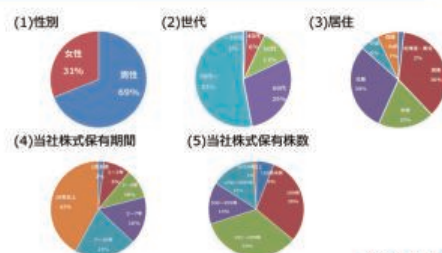
個人投資家を対象とした説明会を実施しています。2016年度は12月に実施し、市場環境やCSR方針を含む経営方針の説明をいたしました。

### ■ 情報開示

東京証券取引所の第一部に株式上市しており、法令および証券取引所の規則に従い、以下の情報を開示しています。また17年度より、英文決算短信の東京証券取引所英語サイトでの開示を開始しました。

- ・連結決算の情報(決算短信、概要プレゼンテーションなど)
- ・有価証券報告書
- ・コーポレートガバナンス報告書
- ・内部統制報告書
- ・独立役員届出書その他ストックオプションや役員変更等、投資判断に重要な影響を与える会社の業務、運営又は業績等に関する情報

【回答者の属性】



株主向けアンケート結果の例

# 地球環境とのかかわり



提供する製品のライフサイクルを含む全てのバリューチェーンについて環境への負荷を低減し、持続可能な社会と地球環境に向け、全員力で取り組みます。

## 環境における基本的な考え方と管理体制

### ■ 環境の基本理念

東京精密は「地球環境が保全されてこそものづくり」という考えのもと、「環境基本理念」を1997年に制定しました。この基本理念を表現したのが「環境基本方針」であり、全ての従業員が

事業活動において実践するために具体化したのが「環境方針」です。東京精密はこれらの理念・方針に基づき全ての事業活動を行っています。

#### 環境基本理念

東京精密は、地球環境保全が人類共通の重要課題であることを認識し、開発・設計・生産・サービスの全域において積極的に環境保全に配慮した行動をとる。

#### 環境基本方針

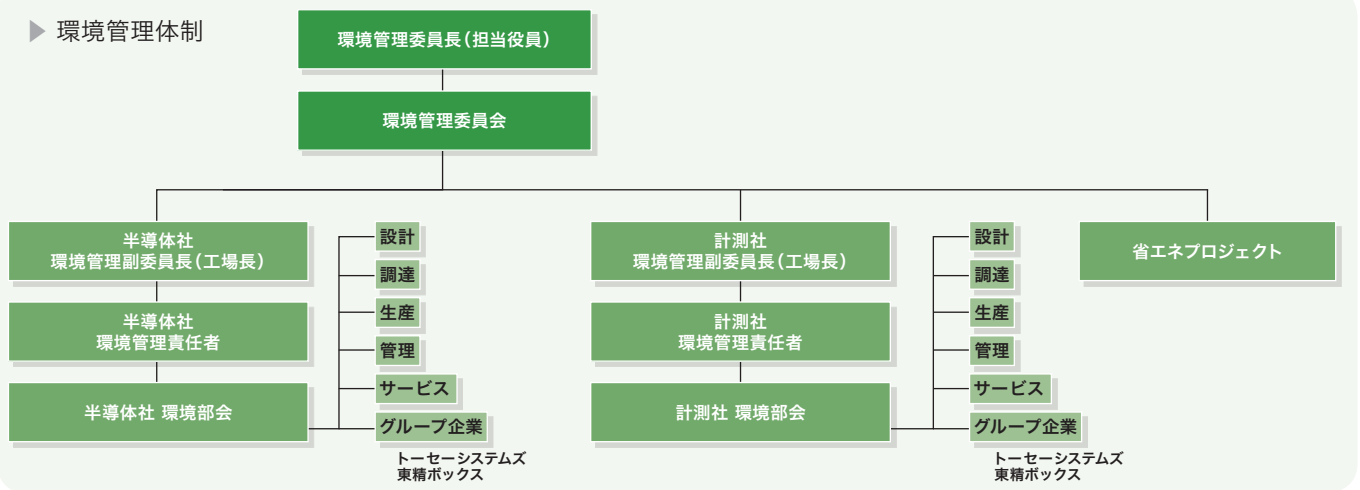
東京精密は、半導体製造装置及び精密測定機器をはじめとする製品の生産、サービスを主とした事業活動において、全従業員が「この行動は地球にやさしいか」を常に配慮し、環境負荷を可能な限り少なくする。

#### 環境方針

1. 「環境管理委員会」を頂点とする、全職制を軸にした環境管理体制を組織し、揺るぎない環境保全活動を推進する。
2. 環境関連の法律、条例、協定及び本「環境方針」を遵守し、自主目標を設定して、汚染防止、環境保全に取り組む。
3. 環境配慮した製品(省エネルギー、省資源、有害物質の不使用)の開発・改善に努める。
4. 事業活動に伴う環境影響に関する以下の項目等について環境目標に定め、環境パフォーマンスを向上させるために継続的改善を行うと共に内部監査等で見直しを行う。
  - 1) 省エネルギー、省資源、廃棄物の削減・リサイクル等による天然資源の有効利用
  - 2) 有害物質の適正管理と使用量の削減及び代替物質への転換
  - 3) 温室効果ガスの排出抑制による地球温暖化防止
5. 全従業員に対し、環境保全に関する教育訓練を行い意識の向上を図る。また、協力工場に対しても環境保全活動についての理解と協力を求める。
6. 事業活動のそれぞれの業務を通じて持続可能な資源の利用、気候変動の緩和や生物多様性保全を始めとした環境保全活動に取り組み、より良い地球環境の実現につとめ、社会の発展に貢献する。
7. 環境マネジメントシステムの適用範囲は半導体社、計測社の活動、製品、サービス及び事業活動に関係する工場の環境保全活動を対象とする。
8. この「環境方針」は社内外に開示する。



### ▶ 環境管理体制



### ■ 環境管理体制

「東京精密環境理念」に基づく環境保全活動を継続的に推進していくために、社内に「環境管理委員会」を設置し、ISO14001のマネジメントシステムに則り活動を行っています。

2009年4月より施行された「エネルギー使用の合理化に関する法律」への対応のため、エネルギー管理統括者を選任しました。

### ■ 内部環境監査

環境管理システムが正しく機能していることを確認するため、毎年2回の定期内部監査を実施しています。

年次の監査員教育と更新試験、環境法令改正時の説明会を義務付けた監査員資格者によって、チェックリストに基づき、厳正な監査を行っています。

## エコファクトリー

### ■ エコファクトリーにおける2016年度の環境目標

2016年度の目標は2015年度の実績を基準として以下のように設定しました。

項目		2015年度実績	目標	備考
八王子工場	電力使用量	1,603 万 kWh	第6工場稼働で八王子サイトでは1,800万 kWh以内に抑える	
	紙購入量	18,147 kg	2016年度購入量を300 kg削減	
	CO <sub>2</sub> 排出量	約7,861 t-CO <sub>2</sub>	東京都総量削減義務 総量10,535 t-CO <sub>2</sub> に対して15%削減 (第6工場稼働分を含む)	上限8,954 t-CO <sub>2</sub> (注1)
土浦工場	電力使用量	0.0324 万 kWh / 百万円 (534.5 万 kWh)	2015年度比原単位1%削減	約5.3 万 kWh削減 (注2)
	紙購入量	0.773 kg / 百万円 (12,756 kg)	2015年度比 維持	
	水資源の使用量	0.359 m <sup>3</sup> / 百万円 (5,929 m <sup>3</sup> )	2015年度比 維持	
	CO <sub>2</sub> 排出量	0.151 t / 百万円 (約2,497 t-CO <sub>2</sub> )	2015年度比1%削減	約25 t削減 (注2)

(注1) 2015年度～2019年度東京都総量削減によるCO<sub>2</sub>排出総量上限値(第2計画期間の排出量換算に基づく)

(注2) 2016年度が2015年度生産高と同じ場合の1%削減量



## ■ 地球温暖化防止の推進

各工場は、省エネ法において一定規模以上のエネルギーを使用する特定事業者に該当するとともに、八王子工場単体でも東京都の環境確保条例の対象事業所として指定されています。

事業活動において一定程度エネルギーを使用する企業として、地球温暖化防止に取り組むべき重要課題として認識し、省エネルギーの推進と再生可能エネルギーの導入に取り組んでいます。

### 省エネルギーの推進

東京精密は、使用エネルギーの中で大きな割合を占める電力について、2015年度を基準として生産高原単位で1%削減を掲げ取り組みました。太陽光発電設備設置、照明LED化、空調機器・コンプレッサー等の施設・設備を省エネタイプに交換しました。今年度も電力削減のための省エネ活動を推進しています。



更新前コンプレッサー



更新後コンプレッサー（新タイプで電力使用量30%削減）

### 再生可能エネルギー導入の推進

電力使用に伴うCO<sub>2</sub>排出量を減らすために、再生可能エネルギーの導入を推進しています。2015年度より発電を開始している八王子第5工場太陽光発電設備の2016年度総発電量は262,260 kWhで、1年間に128 t-CO<sub>2</sub>を削減できました。

2016年度に新しく竣工稼動した八王子第6工場にも太陽光発電設備を設置しました。新しく設置した設備は、年間15万kWh以上の発電が可能で、第5工場との合計発電量は40万kWh超、年間200 t-CO<sub>2</sub>を超える削減を見込んでいます。

## ■ 純水使用量の削減

半導体製造装置を製造する工場で使用している純水の使用量の削減を進めています。ろ過装置を導入し、現在は再使用率が30%程度です。今後も再使用率を高めていきます。

## ■ 廃棄物のリサイクル

梱包用ダンボールを通い箱に置き換えるなど、廃棄物の減量に取り組んでいます。廃棄物のリサイクル率は目標としている95%以上を維持しています。

## ■ 化学物質管理

使用する化学物質について、法令遵守とともに自主基準に基づく管理を行うことで、環境負荷を最小限に留めるよう取り組んでいます。

### 化学物質管理

社内規程により、使用する化学物質は全て環境管理責任者に届け出ることとしており、使用者の安全や衛生への影響、環境への負荷、漏洩等の事故のリスクと効果的な回避行動等を綿密に考慮した取り扱い規程を整備し、厳重に管理しています。物質ごとの取り扱い量、保管場所、最大保管量等を把握するとともに、SDS<sup>\*</sup>及び緊急対策用具を備え、不測事態対応のための定期的訓練を実施しています。

※SDS：Safety Data Sheetの略で「安全データシート」と呼ばれる。化学物質の名称や製造企業名、取り扱い法、危険性や有害性の種類、物性、環境への影響、安全対策、応急対応、緊急時の対策などに関する情報が、化学物質ごとにまとめて記載されている。PRTR法ではメーカー等の企業が化学物質の排出量や廃棄物の移動量を集計し、自治体を経て国に報告することになっていて、SDSの添付が義務付けられている。

### 特定化学物質管理

扱っている化学物質のうちPRTR法特定物質の基準量を超えている2物質について届け出ています。また、東京都の環境確保条例で定められた適正管理化学物質については、八王子工場において5物質が該当するため届け出ています。



## エコプロダクツ

### ■ エコプロダクツにおける2016年度の環境目標

2016年度の目標は2015年度の実績を基準として以下のように設定しました。

		項 目	2015年度実績	目 標
八王子工場	エコプロダクツ	環境配慮設計	—————	新製品は既存製品に対して2019年度までに環境配慮製品設計で環境影響を5%改善する
		環境汚染物質の使用量削減	製品及び製造工程で使用する環境汚染物質の削減及び代替の推進	有機溶剤使用量を20%削減
土浦工場	エコプロダクツ	環境配慮設計	—————	1. 省エネ製品の開発 2. 環境配慮設計の促進（省スペース、ペーパーレス等）
		RoHS 適合製品の推進	RoHS 対象物質の使用を2006年の新製品から原則禁止とする。 欧州 RoHS 指令の基準を満たす部品の使用推進	2017年7月より、RoHS 対象物質含有製品の出荷を禁止とする
		廃棄物対策	2015年度実績実績 389 t リサイクル率 97.4%	リサイクル率を95%以上を維持する
			2015年度の廃棄量 389 t	2015年度の廃棄量を基準として1%削減
環境汚染物質の使用量削減	製品及び製造工程で使用する環境汚染物質の削減及び代替の推進	2015年度の使用化学物質量を基準として1%削減		

### ■ 環境配慮型製品への取り組み

東京精密グループは、東京精密技術標準※1(TES※2)に則り環境配慮型製品の開発を行うことで、製品における環境負荷の低減及び社会の持続可能な発展への貢献に取り組んでいます。製品開発にあたっては、高精度・高品質を第一に、環境負荷低減の基準として製品使用時の負荷低減(省エネ、水使用量削減)、製品含有化学物質対策、原材料投入量削減を掲げ取り組んでいます。環境配慮型製品の実現に向けては、開発設計部門、購買部門、製造部門、出荷部門といった直接部門だけでなく、企画・営業部門、管理部門、サービス部門など間接部門も一体となったものづくりを推進しています。

※1 東京精密技術標準：Tokyo seimitsu Engineering Standard (TES)：生産活動に関わる開発、設計、製造、生産管理、品質管理、サービス及び環境管理に適用する原則で、拘束力、強制力を持つ規程、規格、標準、基準、要領をいう。

※2 TESの構成：1. 一般標準、2. 製品標準、3. 管理標準、4. 設計標準、5. 設備標準、6. 作業標準

今後も社内環境研修等による環境配慮意識の浸透を図ります。また、社外パートナーとの協力体制強化に努めていきます。

東京精密グループは製品ライフサイクルにおける環境負荷の重要性を認識し、2016年に技術ワーキンググループ(技術WG)によって製品の製造から廃棄までの各段階における環境負荷に関するデータの調査・分析を行いました。半導体製造装置と測定機器のどちらも製品使用時の環境負荷が最も高いという構造を改めて認識し、より環境にやさしい製品開発・設計に取り組んでいます。

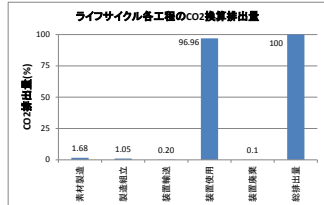
ライフサイクルアセスメント(LCA)とはある製品・サービスのライフサイクル全体(調達、製造、輸送、販売、使用、廃棄、再利用)の各段階における環境負荷を定量的に評価する手法。

▶ 環境配慮型製品

半導体製造装置

生産性  
向上

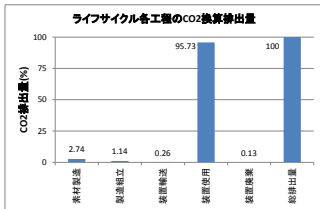
プロービング・マシン  
UF3000EX



スループットを従来機比25%向上させることで生産性を改善しました。またマシン総重量を従来機比9%削減しました。

ダイシング・マシン  
AD3000T

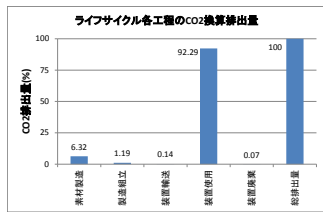
資源  
削減



従来比30%の材料削減および設置スペースを20%削減することで資源の削減に貢献しています。

水削減

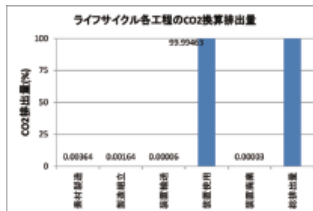
レーザダイシング・マシン  
ML DICER SERIES



従来のブレード(刃)を使用したダイシング加工に比べ、廃液が出ない完全ドライプロセスのため洗浄も不要で純水を使用しません。

ポリッシュ・グラインダ  
PG3000RMX

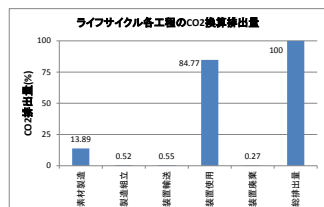
水削減



新たに冷却用水のエコ機能 (Green mode) を搭載し、待機中に一定時間が経過するとポンプの電源を自動でOFFにすることができます。これにより、従来機種より水使用量を29%削減しています。

資源  
削減

CMP装置  
ChaMP211

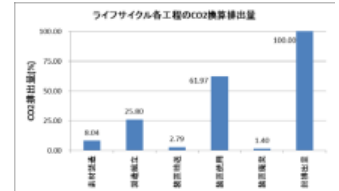


従来機の研磨性能、洗浄性能を確保しながら、少量多品種向けに小型軽量化に取り組み、従来比40%の材料削減を実現しました。

精密測定機器

エネルギー  
削減

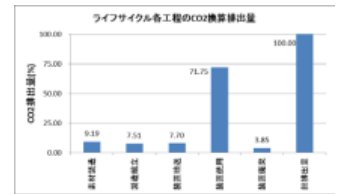
三次元座標測定機  
XYZAX AXCEL



温度保証範囲を15℃ - 30℃に広げたことで、測定室の温度環境維持に使用する空調機のエネルギー消費を削減します。

生産性  
向上

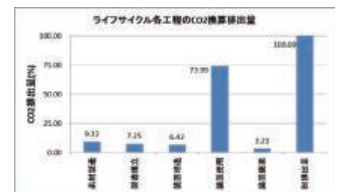
表面粗さ・輪郭形状測定機  
SURFCOM NEX



測定コントロール検出器を搭載したことでオペレータによる測定方法の変更や測定機の再校正時間を省き工場の稼働時間削減に貢献しています。

資源  
削減

真円度・円筒形状測定機  
RONDCOM NEX Rs



従来は真円度測定機と表面粗さ測定機が1台ずつ必要だった測定作業をこの1台に集約しているため、効率的に業務を行うことができます。これにより、資源・エネルギー消費の削減や高効率化に貢献しています。



## 環境目標と環境負荷の全体像

### ▶ 環境目標と取り組み実績

課題項目 (2019年度まで)		2015年度実績	2016年度実績	評価	目標
エコファクトリー	電力使用量 生産高原単位2014年度の1%削減	367.68 (kWh/百万円)	<b>416.29</b> (kWh/百万円)	×	365.57 (kWh/百万円)
	CO <sub>2</sub> の排出量 生産高原単位2014年度の1%削減	八王子：7,861 t-CO <sub>2</sub>	八王子： <b>8,926</b> t-CO <sub>2</sub>	○	八王子：2015年度～2019年度平均 上限8,954 t-CO <sub>2</sub> /年 以下※
		土浦：0.161 (t-CO <sub>2</sub> /百万円)	土浦： <b>0.206</b> (t-CO <sub>2</sub> /百万円)	×	土浦：0.143 (t-CO <sub>2</sub> /百万円)
	紙の購入量 生産高原単位2014年度の1%削減	0.53 (kg/百万円)	<b>0.52</b> (kg/百万円)	◎	0.532 (kg/百万円)
	水資源の使用量 生産高原単位2014年度の1%削減	2.01 (m <sup>3</sup> /百万円)	<b>2.08</b> (m <sup>3</sup> /百万円)	△	2016年度：原単位基準見直し 2019年度までに2014年度より5%削減
	廃棄物対策 リサイクル率95%以上	廃棄物 975,625kg 有効利用 939,990kg リサイクル率 96.3%	廃棄物 <b>935,020</b> kg 有効利用 <b>899,300</b> kg リサイクル率 <b>96.2%</b>	◎	毎年度リサイクル率95%以上
エコプロダクツ	環境配慮設計	エア消費削減：(2機種) 材料削減：(1機種)	電力消費削減：(1機種) エア消費削減：(1機種)	—	八王子工場：新製品の開発時、従来比5%削減 土浦工場：省エネ製品の開発、環境設計の促進
	環境汚染物質の使用量削減	製品及び製造工程で使用する環境汚染物質の削減及び代替の推進	八王子工場：有機溶剤使用量を20%削減 土浦工場：使用量前年度比5%削減	◎	前年度に対して1%削減
	RoHS適合製品の推進	2017年5月のRoHS対応に向けて準備	2017年7月から計測社製品はRoHS適合製品を出荷	○	RoHS適合対応
エコイベント	社会貢献活動への参加	1. 隣接する公園の清掃 2. 八王子道路アドプト活動 3. Fun to shareの参画	1. 隣接する公園の清掃 2. 八王子道路アドプト活動 3. Fun to shareの参画	○	地域社会との協働
	CSR報告書	10月発行	10月発行	○	報告書の充実

※東京都総量削減義務の第2計画期間(2015年度～2019年度)  
温室効果ガス排出量 電気の排出係数=0.489(2015年度係数)にて算出

評価  
◎：目標達成に十分な結果が得られた ○：良好 △：不十分 努力を要す ×：未達成



## ■ 環境目標と取り組み実績

### 電力使用量と土浦工場のCO<sub>2</sub>排出量

電力使用量と土浦工場のCO<sub>2</sub>排出量について未達成となっているのは、2016年度に八王子工場で第6工場竣工稼働による電力使用量が増加したこと、土浦工場の空調エリア拡大により電力使用量が大きく増加したためです。

2016年度に、八王子第6工場に太陽光発電設備設置、八王子第1工場のコンプレッサー設備を省エネタイプに交換、八王子・土浦各工場ともに照明のLED化を推進、空調機器を省エネタイ

プに交換しました。2017年度は八王子・土浦各工場ともに、2016年度比原単位で1%減を実現する見込みです。

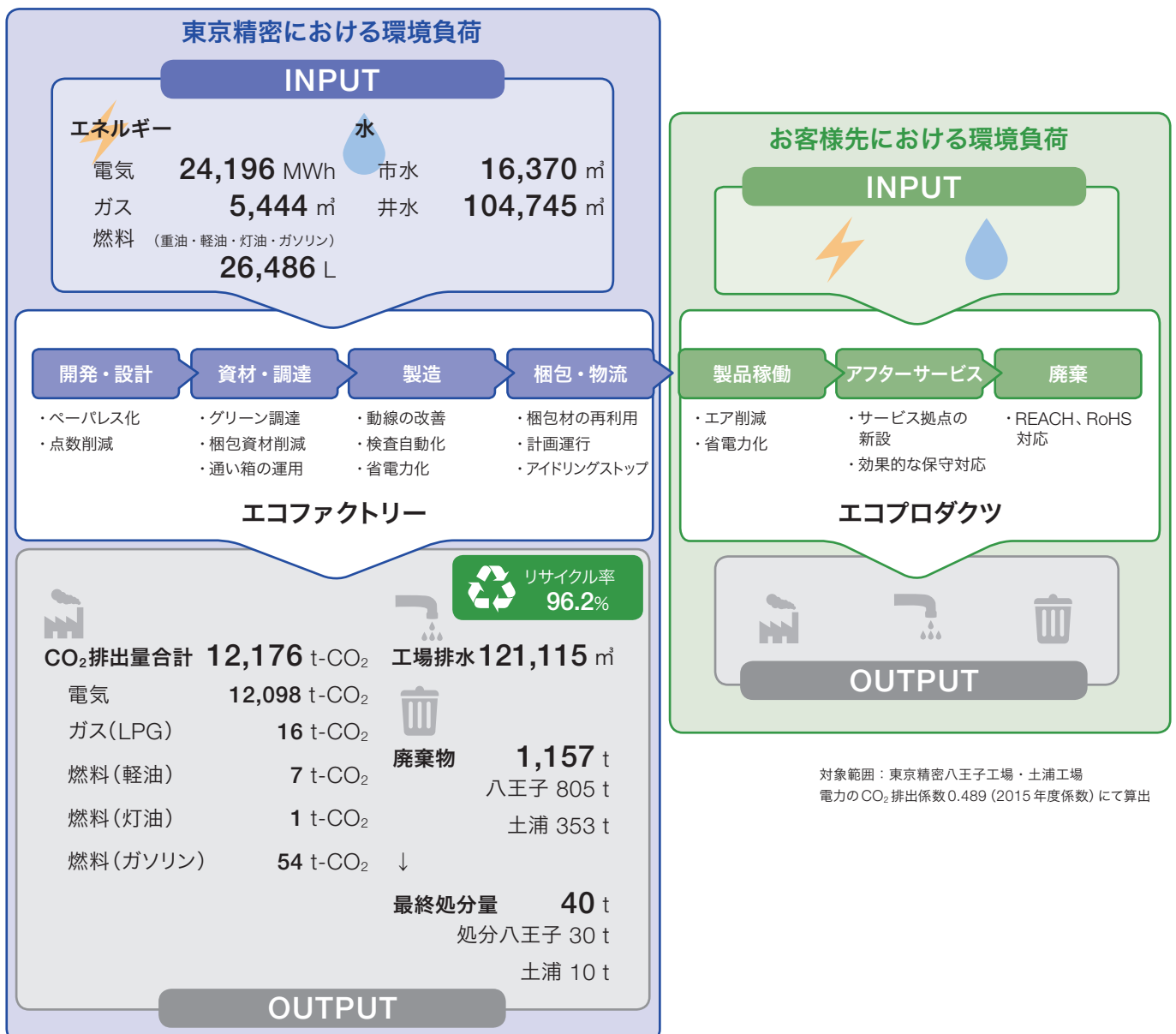
### 水資源使用量

2016年度の水使用量は、121,115 m<sup>3</sup>となり、2015年度に比べ、4,015 m<sup>3</sup>使用量が増加しました。

これは、水を使用する製品の生産が増加したことで、水使用の割合が増えたためです。

## ■ 環境負荷の全体像

### ▶ 環境負荷の全体像



## 環境保全活動の歩み

1996年	7月	環境保全活動の教育訓練を開始	2006年	1月	六価クロムフリー実施
	9月	環境委員会を設立		4月	ハロン消火器の全廃完了
1997年	2月	「環境理念」制定。環境負荷調査を八王子・土浦の両工場及び各部署で開始		6月	クールビズ実施
	5月	環境管理マニュアルを制定		10月	新製品より鉛フリーはんだでの生産開始（半導体社）
1998年	3月	ISO14001 認証を両工場で一括取得	2007年	2月	優秀省エネルギー機器表彰制度でレーザダイサが日本機械工業連合会会長賞受賞
	9月	「MOTTO（行動指針）」を制定	2008年	3月	消防総監表彰状受賞
1999年	11月	廃棄物の焼却炉を停止、その後撤去（半導体社）	2009年	11月	八王子工場「優良防火対象物認定」を更新
2000年	3月	CMP、バックグラインダ等の排水処理施設の運転開始（半導体社）	2010年	8月	東京都から道路アドプト表彰
	5月	重油ボイラーによる暖房設備、地下重油タンクの撤去（半導体社）	2011年	6月	八王子第5工場竣工
2001年	4月	ISO14001 認証を更新		11月	環境方針改定
	5月	八王子工場新本館使用開始	2012年	7月	切断・研削工具の事業開始
2002年	3月	自家用焼却炉廃棄（計測社）	2013年	3月	ISO14001 適用範囲に切断・研削工具を含め認証取得
2003年	3月	「ACCURETECHグリーン調達ガイドライン」を制定	2015年	6月	八王子工場太陽光パネル設置・稼働
2004年	2月	空調設備を重油ボイラーから電気式に更新（計測社）	2016年	5月	第6工場竣工稼働
	8月	「ACCURETECHグループ行動規範」を制定		12月	第6工場に太陽光パネル設置・稼働開始 年間15万kWh見込み 第5工場と合わせて八王子工場消費電力の2.5%を賄う
	9月	環境報告書発行	2017年	6月	ISO14001 認証2015年度版取得
2005年	2月	土浦工場の特定施設廃止			
	4月	安全に関わる表彰事業所として茨城労働局長奨励賞受賞			
	4月	八王子・土浦新工場使用開始			
	6月	ISO14001 認証2004年度版取得			
	7月	サプライヤに対する六価クロムフリーの説明会を実施			



八王子第6工場 太陽光パネル

# 社会とのかかわり



事業活動を通じて社会に貢献することはもとより、企業市民として健全で持続可能な社会づくりのために、社会との対話を通して各地域の課題・ニーズを明確化し、その解決に向けた社会貢献活動を推進していきます。

## 土浦地域における取り組み

### ● エコパートナー協定

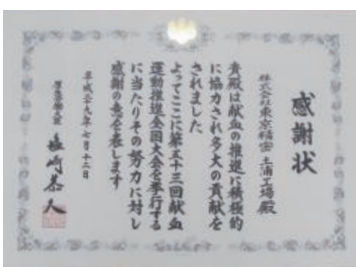
土浦市では、市と事業者とが緊密なパートナーシップを形成して地球温暖化問題、エネルギー問題およびゴミ問題を改善することにより、次世代の子供たちにより良い環境を引き継ぐことを目的として、協調して低炭素社会づくりおよび循環型社会づくりを行う土浦エコパートナー事業を行っています。当社もこの考えに合意して2016年3月末に土浦市との協定を締結し、2017年4月に1年間の活動をまとめた実施報告書を提出しました。



参考：  
土浦市ホームページ  
エコパートナー協定  
<http://www.city.tsuchiura.lg.jp/page/page004517.html>

### ● 献血活動の推進

2017年7月に土浦工場は厚生労働大臣の感謝状を拝受しました。この表彰は、献血運動の推進に積極的に協力し、他の模範となる実績を示した団体または個人を賞するもので、茨城県では3団体に表彰状、8団体に感謝状が贈呈されました。長年にわたって続けてきた献血協力への表彰に意を強くし、今後も続けてまいります。



### ● 「かすみがうら」の保護のために

土浦工場の近隣には茨城県の代表的な観光地「かすみがうら」があります。その「かすみがうら」をよりきれいに保つために、土浦市では近隣企業に公害防止に関する計画書の提出を求めています。当社も土浦市で事業を行う企業として、「かすみがうら」をきれいに保つために土浦市へ「公害防止計画書」を提出し、この計画に沿って「かすみがうら」の水質保全活動を進めています。

### ● 地域美化活動

土浦工場では中貫公園の近隣企業と共に、月一回の公園周辺の清掃を実施しています。

2006年からは毎週月曜に当社単独で各部署持ち回りの清掃を実施しており、2016年度は当社従業員の参加延べ人数が100人を超えました。

この長年の清掃活動により、地域の皆様の認知度も上がってきており、以前は公園周辺の道路にゴミがあふれていましたが、最近では大幅に改善されました。それでも夜間違法駐車するトラック等からのポイ捨ては無くならない為、今後も公園周辺環境をクリーンに保ち社会マナー向上の一助となるべく活動を継続していきます。



地域美化活動の様子

### VOICE 参加した従業員の声



計測社  
アプリケーション  
チーム土浦  
大野 晋

中貫公園は休日になるとサッカー教室に通う親子連れや年配の方々が集う憩いの場となっております。しかし、公園の周りを歩いてみると、空き缶、ペットボトル、タバコの吸殻、はたまた粗大ゴミのようなものまで投棄されていました。このようなゴミを目にすると気分も悪くなり、折角の楽しい休日も台無しです。弊社では毎週清掃担当グループを決めて、清掃活動を実施していますが、清掃活動をして改めて一人一人がルールを守る大切さを感じました。これからは地域社会の美化活動に少しでもお役に立てられればと思います。

## 八王子地域における取り組み

### ● 地域行政とともに

東京労働基準協会連合会 八王子労働基準協会支部の幹事及び総務広報部会委員を務めており、地域の労働行政の円滑な実施の協力を行ったり、定期会報を発行しています。

八王子労働基準協会ホームページ  
<http://hachirou-kyoukai.jp/index.html>

### ● 道路アドプト制度への参加

八王子工場では、2004年より八王子市が実施している道路アドプト制度に参加しています。「JR 北八王子駅東側ロータリー」を対象とし、日常のゴミ拾いに加え、植栽の剪定や除草などの定期清掃により美観の維持に努めています。

毎年4月には、八王子事業所内で1ヶ月間の新入社員集合研修を行っており、駅前ロータリーの清掃・植栽剪定・除草は新入社員研修のカリキュラムとしても実施されています。

八王子市ホームページ「道路アドプト制度とは」  
<http://www.city.hachioji.tokyo.jp/33852/shiminkatudo/shiminkatsudo/adoputo/index.html>



道路アドプト活動の様子

## VOICE 参加した従業員の声



業務会社  
 人事部  
 羽田 瑠子

北八王子駅前には東京精密の社員だけでなく、近隣の企業の方・近隣住民・学生など多くの方が利用される場所です。私自身も毎日通勤で利用する場所ですが、清掃活動をする前までは、人の目に付きづらいところにとこれほどたばこの吸い殻や空き容器などのごみが落ちていたとは知りませんでした。実際に清掃活動を行うと、今まで関わりのなかった他部署の方との交流を楽しめたり、駅前がきれいになる達成感を味わえたりと非常に充実しており、時間があっという間に過ぎていきました。自分たちが気持ちよく過ごせるだけでなく近隣への感謝の気持ちも伝えることが出来るこの活動に、ぜひこれからも積極的に参加したいと思います。

## 業界における取り組み

東京精密は自社の事業だけでなく、培ってきたノウハウや情報を各種関連団体へ活かすことで更なる業界の繁栄に繋げています。

### ■ SEAJ(日本半導体製造装置協会)

SEAJは、半導体製造装置産業並びに関連産業の健全な発展を図るため、統計調査、及び業界の課題や新技術に関する調査、各種セミナー、講演会の開催、標準化の推進など、幅広い活動を行っている団体です。当社からも複数の従業員が組織に参加し、半導体製造装置産業の発展に向け協力しています。

### ■ ISO技術委員会への参加

国際貿易を円滑に行う上で同じ規準やルールで製品を扱う為、ISO (International Organization for Standardization) が組織され、現在は2万件を超える国際規格が制定されています。

この組織の本部はスイスのジュネーブにあり、あらゆるジャンルの製品の規格を定める為、ジャンルごとに技術委員会 (Technical Committee: TC) が組織され、その数は300余りに渡ります。その中で当社に関連するのは「製品の幾何特性仕様」に関する規格を審議、制定するTC213で、ここでは長さの基準や図面寸法の記述方法、その為の測定機器の仕様基準、検査方法等のルールをいくつかのワーキンググループ(WG)に分かれて審議されます。日本の代表委員として当社の3名が任命を受けていて、現在は三次元座標測定機の規格、真円度測定機の規格、粗さ測定機/フィルタの規格、測定不確かさの規格のそれぞれのWGに参加しています。TC213の定期会議は国の持ち回りで会場を変えながら、年2回開催され、懸案になっている新しい規格の審議の他、制定済みの規格に対する改正審議を行っています。

### ■ 精密工学会

精密工学会は工業界の発展や生産技術の向上に大きく貢献している学会で、学術講演会、講習会、シンポジウムや工場見学会、学会誌発行を行っています。東京精密は知的ナノ計測専門委員会に参加しており、2017年は同委員会の会計監査を務めています。学会の2017年度春季大会には、評議員として出席しました。

### ■ 日本精密測定機器工業会

日本精密測定機器工業会は、測定をはじめとする計測全般に関する総合展示会の開催、技術及び品質の向上に資する標準化の推進、他団体との連携による講習会の開催などを通じ、日本の精密測定機器産業の振興に大きく貢献している団体です。当社からは各種部会、委員会、展示会運営等に積極的に参加し、精密測定機器産業の発展に大きく貢献しています。2016年度はJIMTOF2016における同工業会・CMM部会主催セミナーの企画と開催を行いました。また、CMM部会ではJISガイドブックの編集作業も推進しています。

## ISO26000対照表

ISO26000の中核主題	課題	東京精密の取り組み
組織統治	1. 組織統治	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ごあいさつ</li> <li>●東京精密のCSRの考え方</li> <li>●ACCRETECHグループ行動規範</li> <li>●ステークホルダー・エンゲージメント</li> <li>●コーポレートガバナンス                             <ul style="list-style-type: none"> <li>●コーポレートガバナンス</li> <li>●コンプライアンス・リスク管理</li> </ul> </li> </ul>
人権	2. デューデリジェンス	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ACCRETECHグループ行動規範</li> <li>●サプライヤとのかかわり                             <ul style="list-style-type: none"> <li>●紛争鉱物</li> </ul> </li> <li>●従業員とのかかわり                             <ul style="list-style-type: none"> <li>●雇用・人材活用</li> </ul> </li> </ul>
	3. 人権に関する危機的状況	
	4. 加担の回避	
	5. 苦情解決	
	6. 差別及び社会的弱者	
	7. 市民的及び政治的権利	
	8. 経済的、社会的及び文化的権利	
9. 労働における基本的原則及び権利		
労働慣行	10. 雇用及び雇用関係	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ACCRETECHグループ行動規範</li> <li>●従業員とのかかわり                             <ul style="list-style-type: none"> <li>●雇用・人材活用</li> <li>●労働安全衛生</li> </ul> </li> </ul>
	11. 労働条件及び社会的保護	
	12. 社会対話	
	13. 労働における安全衛生	
環境	14. 職場における人材育成及び訓練	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ACCRETECHグループ行動規範</li> <li>●地球環境とのかかわり                             <ul style="list-style-type: none"> <li>●環境における基本的な考え方と管理体制</li> <li>●エコファクトリー</li> <li>●エコプロダクツ</li> </ul> </li> <li>●社会とのかかわり                             <ul style="list-style-type: none"> <li>●土浦地域における取り組み</li> <li>●八王子地域における取り組み</li> </ul> </li> </ul>
	15. 汚染の予防	
	16. 持続可能な資源の使用	
	17. 気候変動の緩和及び気候変動への適応	
公正な事業慣行	18. 環境保護、生物多様性及び自然生息地の回復	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ACCRETECHグループ行動規範</li> <li>●コーポレートガバナンス                             <ul style="list-style-type: none"> <li>●コンプライアンス・リスク管理</li> </ul> </li> <li>●サプライヤとのかかわり                             <ul style="list-style-type: none"> <li>●調達にあたっての基本的な考え方</li> <li>●調達にあたっての協力依頼事項</li> </ul> </li> </ul>
	19. 汚職防止	
	20. 責任ある政治的関与	
	21. 公正な競争	
	22. バリューチェーンにおける社会的責任の推進	
消費者課題	23. 財産権の尊重	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ACCRETECHグループ行動規範</li> <li>●コーポレートガバナンス                             <ul style="list-style-type: none"> <li>●コンプライアンス・リスク管理</li> </ul> </li> <li>●お客様とのかかわり                             <ul style="list-style-type: none"> <li>●顧客満足追求の取り組み</li> </ul> </li> <li>●サプライヤとのかかわり                             <ul style="list-style-type: none"> <li>●調達にあたっての協力依頼事項</li> </ul> </li> <li>●地球環境とのかかわり                             <ul style="list-style-type: none"> <li>●エコプロダクツ</li> </ul> </li> </ul>
	24. 公正なマーケティング、事実に即した偏りのない情報及び公正な契約慣行	
	25. 消費者の安全衛生の保護	
	26. 持続可能な消費	
	27. 消費者に対するサービス、支援、並びに苦情及び紛争の解決	
	28. 消費者データ保護及びプライバシー	
	29. 必要不可欠なサービスへのアクセス	
	30. 教育及び意識向上	
コミュニティの発展	31. コミュニティへの参画	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ACCRETECHグループ行動規範</li> <li>●従業員とのかかわり                             <ul style="list-style-type: none"> <li>●雇用・人材活用</li> </ul> </li> <li>●社会とのかかわり                             <ul style="list-style-type: none"> <li>●土浦地域における取り組み</li> <li>●八王子地域における取り組み</li> <li>●業界における取り組み</li> </ul> </li> </ul>
	32. 教育及び文化	
	33. 雇用創出及び技能開発	
	34. 技術の開発及び技術へのアクセス	
	35. 富及び所得の創出	
	36. 健康	
	37. 社会的投資	

# グループ会社紹介

東京精密グループの関連会社をご紹介します。

## 東精エンジニアリング

### 会社概要

- 設立年月日：1969年4月15日
- 本社所在地：茨城県土浦市東中貫町4番6
- 代表者：代表取締役 田子一弘
- 売上高：11,689百万円（2017年3月期）
- 従業員数：464名（2017年3月31日時点）  
（注）従業員数は当社から他社への出向者を除き、他社から当社への出向者を含みます。
- URL：<http://www.toseieng.co.jp/company/>
- 拠点情報：国内 4工場、13サービス拠点 海外 13拠点



### CSR活動トピックス①

#### ・コンプライアンス・社内規程の周知

東精エンジニアリングは、すべてのステークホルダーの皆様から信頼される企業を目指して、コーポレートガバナンスとコンプライアンスの強化に取り組むと共に、経営の健全性と透明性の確保に努めています。適切な意思決定により持続的な成長と中長期的な企業価値の向上を実現します。また、「ACCRETECH グループ行動規範」を始めとする、社内規程・社内規則の周知徹底を目的として、社内ネットワークにて、常に閲覧確認ができる体制を整えるとともに従業員の理解度向上の取り組みを行っています。

### CSR活動トピックス③

#### ・安全衛生 気付き活動

各工場に設置している安全衛生委員会にて、工場内を定期的にパトロールし、安全に保っています。また、毎週一度テーマを絞り、そのテーマに沿った気付き、改善のアイデアを従業員から挙げて頂いています。テーマは多岐にわたり、社内の安全衛生、業務改善だけでなく、環境にも配慮した活動となっています。すべての従業員が参加して気付き・改善を行っていくことで、当社全体の安全衛生水準が高まっていくと考えています。



CSR活動の様子

### 事業内容

当社は、株式会社東京精密の子会社として、同社製品のサービス、及び測定自動化・省力化機器の開発・製造を行うことを目的として1969年に創立されました。創業以来、「測れないものは作れない」との考えを基本にして、精密加工分野への各種精密測定機器の提供と、それら測定機器のサービス業務を通じて技術の蓄積を図ると共に業容の発展に努めてきました。特に当社では、自動車、ベアリング、家電及び各種エレクトロニクス製品等の生産ライン向け自動計測機器の開発・製造を専門に行ってきました。また、これら精密技術をベースにして半導体製造装置分野にも進出し、現在では当社の主要部門の一つに成長しました。

今後とも、自動計測機器、半導体製造装置の分野において、東京精密グループのMOTTO（行動指針）である「WIN-WINの仕事で世界No.1の商品を創ろう!」のもと、継続的に世界No.1製品と、充実したサービスサポートを提供し、更なる飛躍を目指してまいります。

### CSRへの取り組み

東精エンジニアリングは、東京精密グループとして「世界中の優れた技術・知恵・情報を融合して世界No.1の商品を創り出し、皆様と共に大きく成長していく」を企業理念としています。この企業理念を実践することで、持続的な成長を実現し、企業価値を高めていくことを目指しています。当社では取締役会を頂点とし、CSR推進委員会を中心に各委員会がそれぞれの分野で様々なCSR活動を行っています。

### CSR活動トピックス②

#### ・従業員のワークライフバランスの促進

育児休業制度、介護休業制度など各種制度の整備に取り組み、従業員のワークライフバランスの促進を目指しています。次世代育成支援対策推進法の施行をきっかけに、女性はもとより、男性を含めたすべての従業員（非正規従業員も含めた）の働き方の見直しやワークライフバランスの充実を図っています。また、長時間労働削減の一環として、毎週一度、定時退社日を定め、仕事と日常生活両面の充実を図れるよう、従業員にとって働きやすい環境を整えていきます。

### CSR活動トピックス④

#### ・近隣小学校エリアでの下校時の見守り活動の実施

地域の交通安全運動の一環として、近隣小学校周辺道路にて交通安全運動を行っています。通学路を巡回し、危険な場所の点検や通学路の安全確保を行うことで、地域の子どもたちが安全に通学できることを目的としています。また、当社神立工場を神立地区のこどもを守る110番の家（避難・保護場所）として登録しています。地域の皆様の安全に少しでも貢献できるよう今後も各種施策を図ってまいります。

# トリーシステムズ

## 会社概要

- 設立年月日：1985年10月1日
- 本社所在地：東京都八王子市石川町 2968-2 (株)東京精密工場内
- 代表者：川村 浩一
- 売上高：1,697百万円 (2017年3月期)
- 従業員数：117名 (2017年3月31日時点)
- URL：http://www.toseisys.co.jp/
- 拠点情報：国内 2拠点



## 事業内容

トリーシステムズは東京精密の製品開発をソフトウェアの分野から支える100%出資の関連会社です。半導体製造装置、精密測定機器をミクロン単位の精度で制御・計測を行う組込みソフトウェアの開発をはじめ、装置を使用する為に必要な操作画面(ユーザインタフェース)のソフトウェア、装置に付属するアプリケーションソフト、測定機器で収集したミクロン単位のデータを集計、視覚化するソフトウェアの開発などを行っています。最近では、データベース、WEB技術を利用した東京精密の基幹業務用ソフトウェアの開発、グループ会社のソフトウェアの開発をはじめ、社外(官公庁)などの業務も行っていきます。また、東京精密の技術グループの枠にとられない部分を活かし、各技術グループで利用可能なライブラリーソフトウェアの開発、社内発表会(研修会)を通して、最新技術の紹介、水平展開なども積極的に行っています。

## ISO27001 取得

昨今、企業機密や個人情報漏えいなどの事故が多くなっている中で、グループ会社の基幹業務、社外業務を行う上でもセキュリティ保護対策の実施が急務と捉え、2017年秋にISO27001(情報セキュリティ)の認証取得をグループ会社内で最初に取得しました。認証は基幹業務、社外業務を担当する部署が先行して取得しましたが、今後も他部署での認証取得に向けて活動を続けていきます。

# 東精ボックス

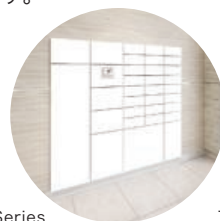
## 会社概要

- 設立年月日：2001年9月1日
- 本社所在地：東京都八王子市石川町 2968-2
- 代表者：高野 英明
- 売上高：625百万円 (2017年3月期)
- 従業員数：37名 (2017年3月31日時点)
- URL：http://www.toseibox.com/
- 拠点情報：国内 3拠点

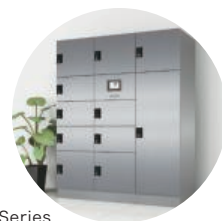


## 事業内容

東精ボックスは“Safety, Comfort and Relief”をモットーに安心してご利用いただける宅配ボックスを通じてより豊かな住環境を提供し、社会に貢献してまいります。宅配ボックスはお客様の不在時荷物受け取りシステムとして利用されてまいりました。昨今、インターネットショッピングの増加により物流量も増え、お客様の生活スタイルにあわせて宅配ボックスを利用する機会が一段と増えております。当社ではお客様のセキュリティの向上、操作性向上、及び建物の内装に調和するステンレス製や各種塗装色の仕上げ製品を供給しております。新製品として非接触型ICカードシステムや指紋認証システムに加え扉の自動オープントップを導入しました。これからも、未来の社会に貢献できるように、より良い製品・サービスの供給に努めると同時にCSR活動にも積極的に取り組んでまいります。



TA Series



TR Series



※トリーシステムズと東精ボックスは東京精密のCSR活動と一緒に活動を行っております。



八王子・土浦工場一括でISO9001、ISO14001を取得

株式会社 東京精密  
CSR推進委員会

〒192-8515 東京都八王子市石川町2968-2  
TEL : (042) 642-1701 FAX : (042) 642-1798  
URL : <http://www.accretech.jp>

発行：2017年10月

A-015-J-1710